

現代人間論系 所蔵図書リスト

(2018.1.25現在)

タイトル	作者	その他の作者	発行所	初版発行年	内容（amazonの内容紹介やBOOKデータベースから抜粋）
AERA Mook（アエラムック）12 社会学がわかる	毎日新聞社		毎日新聞社	1996	
国民衛生の動向 構成の指標 臨時増刊 1997年 第44巻第9号/1998年 第45巻第9号	厚生統計協会		厚生統計協会	1997	
Kritik der reinen Vernunft	Immanuel Kant	J. Timmermann/ H. Klemme	Koch, Neff & Oetinger & Co	1998	イマヌエル・カントは18世紀プロイセンの哲学者である。『純粋理性批判 Kritik der reinen Vernunft』は、彼の批判期(1781～1790)における代表的な著作の一つである。第1版は1781年、第2版は1787年に刊行された。本書には、その両方がおさめられている。
保育園は、いま—みんなで子育て	前田 正子		岩波書店	1997	子どもを預けながら働く女性の増加に伴い、保育園の在り方も変容しつつある。本書はその在り方を当事者でもある著者が、実体験に基づきながら論じたものである。保育園並びに保育の在り方を様々な角度から切り出し、またその問題点について論じる。
岩波講座 現代社会学 (1) 現代社会の社会学	井上 俊ほか		岩波書店	1997	新しい世紀へむけて現代社会を論ずるとき、いま尖鋭に意識されるべきテーマと方法はなにか。
岩波講座 現代社会学 (2) 自我・主体・アイデンティティ	井上 俊ほか		岩波書店	1995	
岩波講座 現代社会学 (3) 他者・関係・コミュニケーション	井上 俊ほか		岩波書店	1995	
岩波講座 現代社会学 (6) 時間と空間の社会学	井上 俊ほか		岩波書店	1996	時間と空間の在り方は、社会によってどのように異なるのか。これらをめぐる認識方法を明らかにし、社会と文化の時間論的・空間論的意味を、建築学・人類学・歴史学・芸術論的視点等と重ね合わせつつ浮彫りにする。
岩波講座 現代社会学 (8) 文学と芸術の社会学	井上 俊ほか		岩波書店	1996	人間の経験と思想を形成しつつける芸術の力とは何か。文学・美術・映像・音楽などの領域にわたって、作品の表象するものとそれらがどう受容されているかを分析、現代人の欲望や理想を探る。
岩波講座 現代社会学 (11) ジェンダーの社会学	井上 俊ほか		岩波書店	1995	
岩波講座 現代社会学 (13) 成熟と老いの社会学	井上 俊ほか		岩波書店	1997	高齢化時代を迎えたいま、日本人の「老い」はどのように変容したのだろうか。老年の性の問題や文化的視点を交差させながら、エイジングの戦略を考える。老年研究の多様な広がりや方向性を示唆。
岩波講座 現代の教育 (第9巻) 教育の政治経済学	佐伯 胖ほか	佐藤 学/浜田 寿美男/黒崎 勲/田中 孝彦/藤田 英典	岩波書店	1998	教育における政治と経済、市民生活のなかの教育、中等教育の再編成、教育改革と市場原理という4つのテーマに沿った論文を集め、社会と教育の間の緊張関係を見据えつつ、現代の教育制度と実践について考える。
岩波講座 宗教 (第1巻) 宗教とはなにか	鶴岡 賀雄ほか	池上 良正/島菌 進/関一敏/小田 淑子/末木 文美士	岩波書店	2003	宗教の歴史は人類の歴史そのものである。宗教的叡知の蓄積は、人間の文化の根源であり可能性の源泉でもある。現代社会が直面する生の無意味化やアイデンティティの危機に、宗教は何ができるのか。宗教学をはじめ、人類学や歴史学など隣接領域の最新知見を動員し、今日における宗教の可能性と問題性をあらゆる角度から検証する。世界規模の情報化と資本の加速的展開のなかで、これまでの宗教理解はゆきづまり、いまや宗教の理念だけでなく、宗教研究のはたすべき役割も問いなおされている。本巻では、揺れ動く宗教の理念を歴史のなかに位置づけなおすことをとおして、宗教の不変のエッセンスを浮き彫りにし、今ありうる宗教の新しい定義をこころみる。
岩波講座 宗教 (第2巻) 宗教への視座	鶴岡 賀雄ほか	池上 良正/島菌 進/末木 文美士/小田 淑子/関 一敏	岩波書店	2004	宗教はどこに着目するか、どうアプローチするかによって、実に多様な相貌を見せる複雑な現象である。本巻では超越・儀礼・権威・起源論・現世利益などの論点を具体的に検討しながら、かくも多様な宗教への視座、方法論＝宗教理解が生じてきた理由を考察する。また、オウム事件以後の方法論的省察や根本的な宗教批判的分析をとおして、理念としての宗教と、現実社会の中での宗教との関わりを考察する。
岩波講座 宗教 (第3巻) 宗教史の可能性	鶴岡 賀雄ほか	池上 良正/島菌 進/関一敏/小田 淑子/末木 文美士	岩波書店	2004	宗教について知るうえで「宗教史」は欠かせない。ユダヤ教・ヒンドゥー教・仏教などの個別宗教史と、神話研究・救済史・世俗化論・死と来世観・民衆宗教史といった様々な問題意識・方法による考察が交錯するところに、多彩な宗教史の試みが展開される。歴史と比較を両論として形づくられてきた宗教史の理論のゆくえを展望する。
岩波講座 宗教 (第4巻) 根源—思索の冒険	鶴岡 賀雄ほか	池上 良正/島菌 進/末木 文美士/小田 淑子/関 一敏	岩波書店	2004	主要な宗教において、伝統的な神学・数学の理論は近代にどのように突き崩され、現代の問題へと発展してゆくのか。諸宗教の根本概念はどのように形成され、展開してきたのか。本巻では広義の宗教哲学・思想の問題を扱い、それぞれの伝統を踏まえ、多様な角度から、現代における宗教思想の可能性を探る。
岩波講座 宗教 (第5巻) 言語と身体—聖なるものの場と媒体	鶴岡 賀雄ほか	池上 良正/島菌 進/末木 文美士/小田 淑子/関 一敏	岩波書店	2004	それ自体では目に見えない「宗教の真理」が、目に見える物質性をもった何かとして実現する場所/かたち—宗教的真理の実現形態としての言語と身体。その諸相を、聖典・翻訳・図像など、メディアとしての言語の位相において、また病い・夢・苦行・笑いなど、魂から身体へのひろがりの位相において、新たに捉えなおす。
岩波講座 宗教 (第6巻) 絆—共同性を問い直す	鶴岡 賀雄ほか	池上 良正/島菌 進/末木 文美士/小田 淑子/関 一敏	岩波書店	2004	あらゆる共同体の基盤となり、人びとを支え、結びつけてきた絆はどのように生成されるのか。その力は源はどこにあるのか。時代や地域、宗教背景などの異なるさまざまな場面で絆を概観し、近代社会との関係を問い直したうえで、変貌しつつける社会のなかにおける絆の可能性と限界を追究する。
岩波講座 宗教 (第7巻) 生命—生老病死の宇宙	鶴岡 賀雄ほか	池上 良正/島菌 進/末木 文美士/小田 淑子/関 一敏	岩波書店	2004	宗教は「救済」「解脱」といった超越的次元を志向しつつも、人びとの生存の場である環境や風景に意味をあたえ、出産・成長・病い・死など、人生の身近な問題に深く関わってきた。本巻では「生命=いのち」をキーワードとして、広義の「宗教」と生活者の身近な問題との関わりを多面的に考察し、宗教をめぐる今日的な問題を展望する。

タイトル	作者	その他の作者	発行所	初版発行年	内容 (amazonの内容紹介やBOOKデータベースから抜粋)
岩波講座 宗教〈第8巻〉暴力—破壊と秩序	鶴岡 賀雄ほか	池上 良正/島菌 進/末木 文美士/小田 淑子/関 一敏	岩波書店	2004	神の名のもとに行われるテロ、そして「悪魔の所業」への報復。宗教は、人類の暴力/権力と深く結びつき、圧政の源泉となる一方で、力の解体にかかわり平和と非暴力をもたらすものでもある。この両義性はどこに由来し、歴史的にどのように展開してきたのかを検討するとともに、現代の抱えるさまざまな問題の解決の途を探る。
岩波講座 宗教〈第9巻〉宗教の挑戦	鶴岡 賀雄ほか	池上 良正/島菌 進/末木 文美士/小田 淑子/関 一敏	岩波書店	2004	科学文明の発展により衰退していくだろうとの予想に反し、宗教は、グローバル化と個人化の進んだ現在、新たな力を得ている。政教分離をめぐる緊張に満ちた綱引き、地域紛争、ジェンダーやエスニシティをめぐる葛藤を理解するために、宗教的なものへの洞察は不可欠である。現代世界における「宗教の挑戦」の諸相を多角的に考察する。
岩波講座 宗教〈第10巻〉宗教のゆくえ	鶴岡 賀雄ほか	池上 良正/島菌 進/末木 文美士/小田 淑子/関 一敏	岩波書店	2004	科学技術の進歩にともない、急速に発展を遂げた現代に生きるわれわれの日常は、いつからか不安に満ち、未来を明るく見つめることさえできない。宗教や信仰は、人々を救う力を持ち続けられるのだろうか。家族、教育、医療、メディアなどのさまざまな位相から、社会とともに変容する宗教のゆくえを展望する。
言語と身体性 (岩波講座 コミュニケーションの認知科学 第1巻)	安西 祐一郎ほか	今井 むつみ/入来 篤史/梅田 聡/片山 容一/亀田 達也/関 一夫/山岸 俊男	岩波書店	2014	人間は、なぜ言語以前の身体の知覚や感情を言語という記号に結びつけられるようになったのか。そもそも音声言語の進化的基盤はどこにあるのか。子どもの言語獲得や意図理解はどのように発達するのか。手話やジェスチャーはどのように生成されるのか。実験観察や計算モデルなどの手法を取り入れ、いわゆる「記号接地問題」を解く。
共感 (岩波講座 コミュニケーションの認知科学 第2巻)	安西 祐一郎ほか	今井 むつみ/入来 篤史/梅田 聡/片山 容一/亀田 達也/関 一夫/山岸 俊男	岩波書店	2014	現代のコミュニケーションにおいて、なぜ「共感」に焦点を当てる必要があるのか。そもそも「共感とは何か」をこれまでの研究史をたどりながら定義し、その生起メカニズムを考える。とくに感情の伝染、共感の意識性、共感の身体反応、内受容感覚、共感の発達と病理などについて、心理・脳・身体という三つの側面から幅広く検討する。
母性と社会性の起源 (岩波講座 コミュニケーションの認知科学 第3巻)	安西 祐一郎ほか	今井 むつみ/入来 篤史/梅田 聡/片山 容一/亀田 達也/関 一夫/山岸 俊男	岩波書店	2014	「育てる」「真似る」「教える」「騙す」「伝える」といった他者との相互作用の進化的基盤はどこにあるのか。脳のどのような作用がそれを生むのか。自己・他者の関係の原点である母子関係から出発し、人の知性や社会性の獲得にいたるしくみを、赤ちゃん学や動物学・ロボット学の成果を通して明らかにし、研究の方向性を示す。
社会のなかの共存 (岩波講座 コミュニケーションの認知科学 第4巻)	安西 祐一郎ほか	今井 むつみ/入来 篤史/梅田 聡/片山 容一/亀田 達也/関 一夫/山岸 俊男	岩波書店	2014	なぜわれわれは他人の目を意識するのか。正義やモラルは生得的なものなのか。多数の人間が共存するためのしくみが、動物でもあるヒトの心のしくみとしてどう形づくられるのかを社会科学と生物学の両面から読み解く。利他・互恵行動や賞罰などの社会制度の源流を探り、安心や信頼の構造がいかにして生まれるかが明らかになる。
自立と支援 (岩波講座 コミュニケーションの認知科学 第5巻)	安西 祐一郎ほか	今井 むつみ/入来 篤史/梅田 聡/片山 容一/亀田 達也/関 一夫/山岸 俊男	岩波書店	2014	病気や障害をもつ人びと、あるいは子どもや高齢者への支援は、相手への思いやりや共感が前提である。支援する者とされる者との立場の非対称を踏まえ、自己の尊厳を守り、自己の存在をいかに相手に認めてもらうかが鍵となる。それを可能にするコミュニケーションの特徴とは何か。臨床現場では何が問われているのかを明らかにする。
いま、教育基本法を読む—歴史・争点・再発見	堀尾 輝久		岩波書店	2002	戦後教育の基本理念を謳った教育基本法が、いま改憲論と連動しながら、初めて本格的な「改正」論議の対象となっている。全11条からなるこの法律には何が書かれ、何が争点となっているのか。制定時とその後議論をふり返り、今日の子どもと学校の深刻な状況を見すえながら、これからの地球時代における積極的な価値を照らし出す。
未来の学校建築—教育改革をささえる空間づくり (シリーズ教育の挑戦)	上野 淳		岩波書店	1999	明治以来の管理的な一斉授業が生んだ、いわゆる「ようかん型」の建築様式からの脱皮が各地で進行している。子どもたちがそれぞれの関心にそってのびのびと学び、ゆつくりとくつろげる学校建築はどうしたらつくれるのか。壁のない教室、高齢者施設との併存など、地域社会に溶け込んだ未来の学校の空間を模索する。
「地球時代」の教育とは? (シリーズ教育の挑戦)	多田 孝志		岩波書店	2000	「国際化教育」の必要性が叫ばれて久しいが、単に世界の現実を知り、外国語で意見を述べるだけが重要ではない。地球規模の問題の解決を求めての自己表現や対話の能力を高める基本的スキルが求められている。外地の日本学校勤務の経験をふまえ、各地の教師たちの意欲的な実践例を豊富に盛り込みながら訴える。
子どもたちと犯罪 (シリーズ教育の挑戦)	青木 信人		岩波書店	2000	80年代の校内暴力にみられる特殊な「異端児」の逸脱行動の頻発期を経て、現在、少年犯罪はその質を変えたとされる。「普通の子」がなぜ「切れる」のか、突然暴力に走るのか、保護観察官の長い経験から、現代の子どもたちをとりまく日常生活と人間関係のありように焦点をあて、子どもの自立と非行からの立ち直りの道を模索する。
ケアその思想と実践 〈1〉 ケアという思想	上野 千鶴子ほか	大熊 由紀子/大沢 真理/神野 直彦/副田 義也	岩波書店	2008	ケアは、する側とされる側との間の相互行為として理解される必要がある。よい関係性を築くための条件とは何か。ケアを媒介とする人間関係、社会関係のあり方を具体的に考察、人がケアをする、ケアを受けるということの根源的な意味を問う。新しい価値観の創造。ケアの思想と実践を言語化し理論化する総合的なところろみ。
ケアその思想と実践 〈2〉 ケアすること	上野 千鶴子ほか	大熊 由紀子/大沢 真理/神野 直彦/副田 義也	岩波書店	2008	ケアワーカーの労働や待遇の実態、仕事のやりがい、ケア現場のジェンダー規範、虐待や身体拘束、感情労働やストレスの問題。認知症ケアの難しさ、コミュニティ・ケアの理想と現実—ケアワークがはらむ様々な問題を浮き彫りにし、ケアワークの専門性とは何かを改めて問い直す。
ケアその思想と実践 〈3〉 ケアされること	上野 千鶴子ほか	大熊 由紀子/大沢 真理/神野 直彦/副田 義也	岩波書店	2008	ケアされる側の思想の確立と、「当事者」としての技法の開発、作法の習得が求められている。高齢者もまた「みずからのニーズを認識し、表現し、介護者に伝える権利と義務」を持つときに、ニーズの「当事者」となる。ケアされる経験の先達であり、エキスパートである障害者の命がけの試行錯誤から、高齢者が学ぶことは少なくない。

現代人間論系 所蔵図書リスト

(2018.1.25現在)

タイトル	作者	その他の作者	発行所	初版発行年	内容（amazonの内容紹介やBOOKデータベースから抜粋）
ケアその思想と実践 〈4〉 家族のケア 家族へのケア	上野 千鶴子ほか	大熊 由紀子/大沢 真理/神野 直彦/副田 義也	岩波書店	2008	
ケアその思想と実践 〈5〉 ケアを支えるしくみ	上野 千鶴子ほか	大熊 由紀子/大沢 真理/神野 直彦/副田 義也	岩波書店	2008	介護保険によって恩恵から権利へと一変した高齢者福祉。だがそこには、日本社会の課題もまた凝縮して現れている。十全なケアを可能にする社会的な仕組みをどのようにして構築するのか。協力原理の観点からケアのビジョンと設計を描き直し、安心して暮らせる社会づくりを構想する。
ケアその思想と実践 〈6〉 ケアを実践するしかけ	上野 千鶴子ほか	大熊 由紀子/大沢 真理/神野 直彦/副田 義也	岩波書店	2008	政府による社会政策が、家族や企業、NPOなどの制度・慣行と好適にかみ合ってはじめて、誰もが公平に良質なケアを受けることが可能となる。病院、NPO、生協、ケア産業、第三者評価機構、地域社会など、さまざまなセクターでの実践例を紹介。その分析を通して、日本の「福祉混合」の最適化の方向を提言する。
岩波 女性学事典	井上輝子他	江原 由美子/加納 実紀代/上野 千鶴子/大沢 真理	岩波書店	2002	日本の女性学・フェミニズムを初めて事典として集成。1970年代のウーマン・リブ以来、女性解放をめざす運動も思想・研究も多様な発展を遂げてきた。その蓄積を中心に国や自治体の女性行政、近現代の女性史、また心や身体の問題にも重点を置き、女性の問題にかかわる広範な分野の項目を収録。
不幸なる芸術・笑の本願 (岩波文庫)	柳田 国男		岩波書店	1979	
プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神 (岩波文庫)	マックス ヴェーバー	大塚 久雄	岩波書店	1989	営利の追求を敵視するピューリタニズムの経済倫理が実は近代資本主義の生誕に大きく貢献したのだという歴史の逆説を究明した画期的な論考。マックス・ヴェーバー（1864-1920）が生涯を賭けた広大な比較宗教社会学的研究の出発点を画す。旧版を全面改訂して一層読みやすく理解しやすくとともに懇切な解説を付した。
現象学 (岩波新書 青版 C-11)	木田 元		岩波書店	1970	現象学は今日、哲学のみならず、人文・社会科学に広く影響を及ぼし、一つの大きな潮流をかたちづけている。本書は、現象学をフッサール、ハイデガー、サルトル、メルロ＝ポンティといった哲学者の思想の展開のうちに生きた知的運動として位置づけ、「われわれにとって現象学はいかなる意味をもつか」を明らかにする。
新哲学入門 (岩波新書)	廣松 渉		岩波書店	1988	哲学とはなにを解明しようとする学問なのか。近代哲学の行きづまり状況はいかにして打破されるべきか。従来の物的世界像から事的世界観への転回をはかって独自の哲学体系を構想し各方面に波紋を投じている著者が、認識、存在、実践の三つの側面から、私たちを捉えている近代的世界観の根底的批判を展開し、新しい知の枠組への案内を試みる。
心病める人たち―開かれた精神医療へ (岩波新書)	石川 信義		岩波書店	1990	日本は精神病者に冷たい国である。治療より治安を優先し、患者を病院に閉じこめることばかりに熱心だ。宇都宮病院の悲劇もそこから生まれた。いち早く完全開放病棟を実現した病院長が、自らの実践の跡を振り返りながら。精神病院の縮小・廃止にむかう欧米の動向を紹介し、日本の精神医療の矛盾と進むべき道を怒りと情熱をこめて語る。
居住福祉 (岩波新書)	早川 和男		岩波書店	1997	住宅災害であった阪神大震災、困難な在宅介護、ホームレス問題。貧困な居住条件は人々の心身を破壊するだけでなく、その社会的費用もはかりしれない。居住環境ストックの充実による町の防災・福祉機能向上にむけて、世界や日本の取り組みを紹介し、市民と行政が一体となった、誰もが安心して住める町づくりを構想する。
反貧困―「すべり台社会」からの脱出 (岩波新書)	湯浅 誠		岩波書店	2008	うっかり足をすべらせたなら、すぐさまど底の生活にまで転げ落ちてしまう。今の日本は、「すべり台社会」になっているのではないか。そんな社会にはノーを言おう。合言葉は「反貧困」だ。貧困問題の現場で活動する著者が、貧困を自己責任とする風潮を批判し、誰もが人間らしく生きることのできる「強い社会」へ向けて、課題と希望を語る。
介護―現場からの検証 (岩波新書)	結城 康博		岩波書店	2008	二〇〇〇年に発足した介護保険。今、現場からは「介護予防」とは?」「サービスを充分受けられない」「地域格差が拡大している」「介護士では生活できない」といった戸惑いの声が挙がっている。サービス利用者、その家族、介護従事者、行政担当者、政治家等、多数の関係者へのインタビューをもとに、早急に求められる処方箋を考察する。
世代間連帯 (岩波新書)	上野 千鶴子		岩波書店	2009	「おひとりさまの老後」のシナリオは、ロスジェネ世代には通用しない?団塊世代は、年金を食い逃げして、逃げ切ることか?とかく対立が煽られる世代の違いを超え、本当に安心できる社会を求めて、社会学者と政治家が労働、教育、子育て、住宅、介護などの課題と解決策を語り尽くす。
新しい労働社会―雇用システムの再構築へ (岩波新書)	濱口 桂一郎		岩波書店	2009	正規労働者であることが要件の、現在の日本型雇用システム。職場の現実から乖離した、その不合理と綻びはもはや覆うべくもない。正規、非正規の別をこえ、合意形成の礎をいかに築き直すか。問われているのは民主主義の本分だ。独自の労働政策論で注目される著者が、混迷する雇用論議に一石を投じる。
生活保障 排除しない社会へ (岩波新書)	宮本 太郎		岩波書店	2009	不安定な雇用、機能不全に陥った社会保障。今、生活の不安を取り除くための「生活保障」の再構築が求められている。日本社会の状況を振り返るとともに、北欧の福祉国家の意義と限界を考察。ベーシックインカムなどの諸議論にも触れながら、雇用と社会保障の望ましい連携のあり方を示し、人々を包み込む新しい社会像を打ち出す。
アルコールリズム―社会的人間の病氣 (朝日文庫)	なだ いなだ		朝日新聞社	1999	「アルコールリズム」とはどんな病氣か?その効果的な治療法は?多くの患者を長年にわたって見つめてきた著者が、試行錯誤を重ねてたどり着いた問題解決への道。日本のアルコールリズムの30年以上にわたる変遷を振り返りつつ、患者は、そして家族はこの病氣にどう対峙するべきなのかを考える。
家族学のみかた。(アエラムック (39))			朝日新聞社	1998	愛するがゆえにののしり、甘えたくて暴力をふるう。「家族」が織りなすサイコドラマは不思議がいっぱい。ねじれた謎を解き明かす「家族学」の世界を紹介する入門書。文献ガイド付き。

現代人間論系 所蔵図書リスト

(2018.1.25現在)

タイトル	作者	その他の作者	発行所	初版発行年	内容（amazonの内容紹介やBOOKデータベースから抜粋）
英文日本大事典—カラーペディア / Japan: An Illustrated Encyclopedia imidas イミダス 2003			講談社	1993	日本のすべてが英語でわかる、世界にひとつの大事典。フルカラー写真・図版4000点。引きやすい12000項目。
部長、その恋愛はセクハラです! (集英社新書)	牟田 和恵		集英社	2002	150分野のキーワード解説と2大特集で時代を的確に捉え、毎年進化する最新情報・知識辞典。別冊付録は「9.11」後の世界を図表と解説で深く読む『世界情報アトラス』。「9.17」日朝首脳会談後の動向にも迫る。別冊付録として「世界情報アトラス」がある。分野別索引、主なデータと図表リスト、アルファベット略語索引、項目索引、分野別小見出し索引付き。
新 凍りついた瞳(め)	椎名 篤子		集英社	2003	現実には生じるセクハラは、お役所や会社、大学が発行している防止パンフレットや各種マニュアルの事例とはだいぶ違うものである。結局、この問題の難しさは、ほとんどのセクハラが、グレーゾーンで生み出される点にこそあるのだ。なぜ女性にはっきりとノーと言わないのか、男性はなぜ気づかないのか。恋愛がらみの二つのパターン、妄想系とリアル系の違いとは。そして、訴えられたらどうすればいいのか。セクハラ問題の第一人者が、豊富な具体例を紹介しつつ、男が嵌りやすい勘違いの構図をあぶりだす。
プログレッシブ英和辞典[第4版]並装	国広 哲弥	堀内 克明/安井 稔	小学館	2002	英語文化へ読者を招待する最良の英和辞典。学習や実務に生きる精選された11万7000語を収録。時事語・生活語・新語・俗語の他、生命科学や金融、スポーツ用語なども追加。大学受験をめざす高校生から、新聞・雑誌を読みこなす社会人まで、幅広く使えます。
自殺論 (中公文庫)	デュルケーム	宮島 喬	中央公論社	1985	
教育行政学	平原 春好		東京大学出版会	1993	教育行政や教育行政学を行政職員や学校管理職だけが理解していればよいとしていた従来の考え方を脱し、一般教師、未来の教師・親・社会人としての学生他のためにこの本は書かれた。教育行政のよりよい発展のために。
教育への問い—現代教育学入門	天野 郁夫		東京大学出版会	1997	教育問題の「問い方」と「論じ方」を具体的にわかりやすく説き新しい教育学の魅力と可能性を示す。
シリーズ福祉社会学1 公共性の福祉社会学: 公正な社会とは	武川 正吾		東京大学出版会	2013	公共性に関わる領域は、福祉社会学の重要な研究分野のひとつである。とりわけ労働・家族・ジェンダーなど、社会学固有の領域と交錯させながら社会政策の問題をとりあげながら、ワークフェア、ジェンダー・エクイティ、グローバル化などのイシューをとおして、公正な社会のありかたを探究する。
闘争性の福祉社会学—ドラマトゥルギーとして (シリーズ福祉社会学)	副田 義也		東京大学出版会	2013	闘争の理論は社会学の主戦場のひとつである。貧困問題とそれへの抗議、当事者運動、認知症ケア、ターミナルケアなどにおける葛藤、東アジア社会における不平等とそれへの対抗など、さまざまな論争のテーマをとりあげる。博愛と受容の社会福祉論は、闘争と主張の福祉社会学へとその姿を変える。
シリーズ福祉社会学3 協働性の福祉社会学: 個人化社会の連帯	藤村 正之		東京大学出版会	2013	産業社会の進展によって地域共同体の機能は弱まり、また自己決定が唱導される現代社会では個人化の進行が著しい。そのような社会で、異なる人びとが共に携わる協働がどのように可能なか。人びとの共生への志向、新たな組織・媒体を通じた行政と民間の連携など、個人化社会における連帯の動きをさぐる。
シリーズ福祉社会学4 親密性の福祉社会学: ケアが織りなす関係	庄司 洋子		東京大学出版会	2013	ケアをめぐる諸問題は、福祉社会学においてもっとも重要な関心事である。家族機能が変容する現在、生老病死において生じるケアの関係は、親密性の世界に独自かつ多様な展開をみせている。子ども・高齢者・障害者・病者をめぐるケアの現実をとりあげ、福祉社会学における課題にこたえる。
講座社会学 (1) 理論と方法	高坂 健次/厚東 洋輔		東京大学出版会	1998	本シリーズは、社会学の実証的な研究の成果にもとづいて、きわめて重要な転換期を迎えている現代日本社会を、多様な領域にわたって解明し、21世紀に向けての展望を示すことを目指して、とりまとめられるものである。単なる言説の羅列や、思いつきのとれる社会・文化評論や風俗批評風の記述に傾斜することなく、これまでの社会学的研究の成果を十分にふまえた実証性と体系性を、全体の基調とした。
講座社会学 (2) 家族	目黒 依子/渡辺 秀樹		東京大学出版会	1999	社会学の実証的な研究の成果にもとづいて、きわめて重要な転換期を迎えている現代日本社会を、多様な領域にわたって解明し、21世紀に向けての展望を示すシリーズ。本巻では、日本社会のアクチュアルな分析、人間的な価値、総合的な視野、21世紀のグローバル・スタンダードへ、近代のゆらぎ、個人化する家族を取り上げた。
講座社会学 (3) 村落と地域	蓮見 音彦		東京大学出版会	2007	経済成長とその失速、国際化・グローバル化の影響を受けて、崩壊の兆しを示すほどに変動する農村の生活と社会に、どのような展望が描けるのだろうか。地域の活性化・住民自治の方向をめざして、開発と都市化のもとでの地域生活の変貌をたどる。
講座社会学 (3) 村落と地域	蓮見 音彦		東京大学出版会	2007	日本社会のアクチュアルな分析、人間的な価値、総合的な視野、21世紀のグローバル・スタンダードへ。解体から再生へ、その展望を探る。
講座社会学 (5) 産業	北川 隆吉		東京大学出版会	1999	社会学の実証的な研究の成果にもとづいて、きわめて重要な転換期を迎えている現代日本社会を、多様な領域にわたって解明し、21世紀に向けての展望を示す。本巻は、産業をテーマに考察。

タイトル	作者	その他の作者	発行所	初版発行年	内容（amazonの内容紹介やBOOKデータベースから抜粋）
講座社会学（6）労働	稲上 毅/川喜多 喬		東京大学出版会	1999	日本社会のアクチュアルな分析、人間的な価値、総合的な視野、21世紀のグローバル・スタンダードへ、ブラザ合意後の変わりゆく姿。日本の企業コミュニティ、雇用システム、長期雇用や能力開発とキャリア形成、企業別組合と団体交渉と賃金、熟練技能の形成、就業形態の多様化の背景、労働者の転職などによる移動などについて考察する。
講座社会学（7）文化	宮島 喬		東京大学出版会	2000	今日、社会学を学ぶ、あるいは研究する人々にとって「文化」が、興味をそそるテーマの1つになっている、その背景、理由に対して本巻の全体をもって答えてゆく。
講座社会学（8）社会情報	児島 和人		東京大学出版会	1999	日本社会のアクチュアルな分析人間的な価値、総合的な視野21世紀のグローバル・スタンダードへ。マルチメディア化と情報ネットワーク化について。情報化とメディア・コミュニケーション、情報化と現代社会、社会情報理論の展望の3つのテーマの論文を収録。社会学の実証的研究の成果にもとづき、現代日本社会の情報化をキーワードにして解明し、21世紀への展望を示す。
講座社会学（9）政治	間場 寿一		東京大学出版会	2000	55年体制の崩壊と日本政治の現在。政治意識と政治行動の変化、運動組織や地域社会などの中間集団の動き、ナショナル・ポリティクスの構造変動他を分析し、「権力と参加」の観点から55年体制の全体像を読み解き、ポスト55年体制の政治の動向を展望する。
講座社会学（10）逸脱	宝月 誠		東京大学出版会	1999	犯罪や逸脱は社会を映す鏡だといわれる。「安全」であった日本社会も、その発展の陰に「いじめ」や企業犯罪などを育んできた。逸脱はどのようにして生じ、どのように社会的にコントロールされるのか明らかにしてゆく。
講座社会学（11）福祉	直井 道子/平岡 公一		東京大学出版会	2010	社会構造の変化と国民生活の変貌は、生活問題や、その対応としての福祉政策をも大きく転換させてきた。社会の変化と福祉政策の転換の関連を解明し、これからの福祉社会のあり方を構想する。
講座社会学（12）環境	舩橋 晴俊/飯島 伸子		東京大学出版会	1998	人間社会との調和と共存。
講座社会学 13 階層	直井 優/藤田 英典		東京大学出版会	2008	豊かな社会、中流社会、そしていま格差社会といわれている現代日本社会の階層構造とその変動をダイナミックに分析。多年の実証的研究の成果に基づく時系列データと国際比較データを駆使して、日本の階層構造の特質と変化を浮き彫りにする。
講座社会学（14）ジェンダー	鎌田 とし子/木本 喜美子/矢沢 澄子		東京大学出版会	1999	日本社会のアクチュアルな分析、人間的な価値、総合的な視野、21世紀のグローバル・スタンダードへ、社会形成へのオルタナティブな視角。
講座社会学（15）社会運動	矢沢 修次郎		東京大学出版会	2003	運動の多様化とパラダイム転換戦後日本社会の社会運動をたどるとともに、情報化・国際化が進み、組織化の進展する現代日本社会における多様な社会運動の様相に具体的に迫り、今日の社会運動の新たな特質と方向を展望する。
講座社会学（16）国際社会	小倉 充夫/加納 弘勝		東京大学出版会	2002	グローバリゼーションを問い直す国民国家を前提とした考え方を問い直し、国際関係や諸社会間の関係に注目して社会の構造と変動をとらえる。地域の実証的な研究をふまえて、社会学の新たな課題を検討する。
SASによる実験データの解析 (SASで学ぶ統計的データ解析)	高橋 行雄		東京大学出版会	1989	
SASによる実験データの解析 (SASで学ぶ統計的データ解析)	高橋 行雄		東京大学出版会	1989	
SASによるデータ解析入門 (SASで学ぶ統計的データ解析)	市川 伸一		東京大学出版会	1993	バージョン6用新版。機能の拡張と使い方の変化に即して全面改訂。“SASの基本”から“データ解析入門”まで、最新情報を盛り込んでわかり易く解説。
国民生活白書（平成11年版）―選職社会の実現	経済企画庁		大蔵省印刷局	1999	
青少年白書（平成8年度版）	総務庁青少年対策本部		大蔵省印刷局	1997	
青少年白書（平成9年版）―青少年問題の現状と対策	総務庁青少年対策本部		大蔵省印刷局	1998	青少年による情報通信の活用状況や高度情報通信社会に向けた行政の取組などについて述べる第1部と、平成9年12月現在の統計資料に基づいた、青少年の人口などの現状を述べる第2部から成る白書。
青少年白書―青少年問題の現状と対策（平成10年度版）	総務庁青少年対策本部		大蔵省印刷局	1999	青少年の非行等問題行動の背景等について考察し、今後の対応について考えるほか、最新の各種統計資料で青少年の現状を明らかにし、青少年に関する国の施策を紹介する。
青少年白書（平成11年度版）―青少年問題の現状と対策	総務庁青少年対策本部		大蔵省印刷局	2000	青少年行政のあゆみを概観し21世紀への展望を考えた第1部、最新の各種統計資料に基づき青少年の現状を明らかにした第2部、青少年に関する国の施策について記述した第3部から成る白書。
青少年白書（平成13年度版）―21世紀を迎えての青少年健全育成の新たな取組	内閣府		財務省印刷局	2001	青少年行政の状況を概観し、地域における取組の在り方や今後の施策の方向について考えた第1部、最新の各種統計資料に基づき青少年の現状を明らかにした第2部、青少年に関する国の施策について記述した第3部から成る白書。
青少年白書（平成14年版）―青少年の現状と施策	内閣府		財務省印刷局	2002	
青少年白書（平成15年版）（「暮らしと社会」シリーズ）	内閣府		国立印刷局	2003	
青少年白書（平成16年版）青少年の現状と施策（「暮らしと社会」シリーズ）	内閣府		国立印刷局	2004	本白書は、第1部において、各種統計資料に基づき青少年の現状を紹介するとともに、第2部において、大綱の構成に沿って内閣府をはじめとする国の施策について平成15年度を中心に記述している。
青少年白書―青少年の現状と施策（平成17年版）（「暮らしと社会」シリーズ）	内閣府		国立印刷局	2005	本白書では、第1部において、各種統計資料に基づき青少年の現状を明らかにするとともに、第2部において、国の施策について平成16年度に講じた施策を中心に大綱の構成に沿って記述している。

タイトル	作者	その他の作者	発行所	初版発行年	内容（amazonの内容紹介やBOOKデータベースから抜粋）
青少年白書—青少年の現状と施策（平成18年版）社会的自立に向けて 可能性への挑戦（「暮らしと社会」シリーズ）	内閣府		国立印刷局	2006	各種統計資料に基づき青少年の現状を明らかにするとともに、国の施策について「青少年育成施策大綱」の構成に沿って記述する。
犯罪白書（平成8年版）凶悪犯罪の現状と対策	法務省法務総合研究所		大蔵省印刷局	1996	本書では、平成七年を中心とする最近における犯罪動向と犯罪者処遇の実情を概観するとともに、特集として「凶悪犯罪の現状と対策」を取り上げ、人の生命を直接の侵害対象とする殺人や、生命への危険性がきわめて高い強盗に焦点を絞り、凶悪犯罪全体としての犯罪動向、犯罪者の特質・背景、犯罪者に対する処遇の実情ならびに社会の対応および被害者の状況等について、必要な分析を加えつつ現状を紹介することによって、この種の犯罪の防止と犯罪者の処遇のためにより効果的な対策を講ずる上での資料を提供している。
犯罪白書（平成9年版）	法務省法務総合研究所		大蔵省印刷局	1997	日本国憲法施行50年の刑事政策を特集。わが国における犯罪状況の推移と犯罪者処遇の変遷のあとを回顧。数値の変動だけではなく、そのときどきの社会情勢等の時代背景を明らかにしつつ考察する。
犯罪白書（平成10年版）—少年非行の動向と非行少年の処遇	法務省法務総合研究所		大蔵省印刷局	1998	平成9年度を中心とした最近の犯罪動向と犯罪者処遇の実情を概観するとともに、少年非行の動向と非行少年の処遇を特集。最近の少年非行の動向を分析し、より効果的な少年非行対策のための資料を提供する。
犯罪白書（平成11年版）犯罪被害者と刑事司法	法務省法務総合研究所		大蔵省印刷局	1999	平成10年度を中心とした最近の犯罪動向と犯罪者処遇の実情を概観するとともに、「犯罪被害者と刑事司法」を特集。効果的な犯罪被害者対策を講ずる上で役に立つ資料を提供する。
犯罪白書（平成12年版）経済犯罪の現状と対策	法務省法務総合研究所		大蔵省印刷局	2000	平成11年度を中心とした最近の犯罪動向と犯罪者処遇の実情を概観するとともに、「経済犯罪の現状と対策」を特集。経済犯罪への有効適切な対策を講ずる上で参考となる資料を提供する。
犯罪白書—増加する犯罪と犯罪者（平成13年版）	法務省法務総合研究所		財務省印刷局	2001	平成12年を中心とした最近の犯罪動向と犯罪者処遇の実情を概観するとともに、「増加する犯罪と犯罪者」を特集。犯罪の防止および犯罪者処遇に関する有効適切な対策を講ずる上で参考となる資料を提供する。
犯罪白書（平成14年版）暴力的色彩の強い犯罪の現状と動向	法務省法務総合研究所		財務省印刷局	2002	
犯罪白書—変貌する凶悪犯罪とその対策（平成15年版）	法務省法務総合研究所		国立印刷局	2003	
犯罪白書（平成16年版）犯罪者の処遇	法務省法務総合研究所		国立印刷局	2004	
犯罪白書（平成17年版）少年非行	法務省法務総合研究所		国立印刷局	2005	平成16年を中心に、犯罪の動向、犯罪者の処遇等を概観。特集の「少年非行」では、最近における我が国の少年非行の動向と非行少年の資質等を分析するとともに、非行少年に対する施設や社会での処遇の実情なども紹介する。
犯罪白書（平成18年版）刑事政策の新たな潮流	法務省法務総合研究所		国立印刷局	2006	平成17年を中心に、犯罪の動向、犯罪者の処遇等を概観するとともに、「刑事政策の新たな潮流」と題して、性犯罪者の再犯防止のための処遇上の取組等、刑事政策に関連する新たな動きを中心に特集する。
文部科学白書（平成13年度）21世紀の教育改革	文部科学省		財務省印刷局	2002	教育、科学技術・学術、文化・スポーツなどの文教・科学技術施策の主な内容について、それぞれ分野ごとに記述。特集では第二次大戦後の教育のあゆみを概観するとともに21世紀の教育改革を展望する。
我が国の文教施策—生涯学習社会の課題と展望 進む多様化と高度化（平成8年度）	文部科学省		大蔵省印刷局	1997	
我が国の文教施策—心と体の健康とスポーツ（平成10年度）	文部科学省		大蔵省印刷局	1998	平成9年度に策定された教育改革プログラムに沿って進められている教育改革の動向を紹介するほか、心と体の健康とスポーツを特集。教育、学術、文化にわたる文教施策を分野ごとに記述する。
我が国の文教施策（平成11年度）—進む「教育改革」	文部科学省		大蔵省印刷局	1999	我が国の教育・学術・文化・スポーツの全般にわたる文教施策を分野ごとに記述する。特集としては文部省が臨時教育審議会発足以降進めてきた教育改革について、Q&A形式など様々な工夫を凝らして紹介する。
我が国の文教施策（平成12年度）文化立国に向けて	文部科学省		大蔵省印刷局	2000	我が国の教育・学術・文化・スポーツの全般にわたる文教施策を分野ごとに記述する。特集としては文部省が21世紀の文化立国の実現に向けて推進している、様々な施策について紹介する。
少女ジェリーの告発—なぜ彼女は父親に犯されたのか	Shelley Sessions/ Peter Meyer	本戸 淳子	徳間書店	1992	「魂の殺人」近親姦。8歳から16歳まで、父親はなぜ娘を犯しつづけたのか?そして、なぜ彼女は父親を告発する勇気を得たのか?アメリカ社会の基層、家庭をむしばむ児童虐待の真実を誰がこれほど赤裸々に語ったのだろうか?
現代心理学理論事典	中島 義明		朝倉書店	2001	心理学を構成する諸理論を体系的に網羅。各理論に対する評価、今後の予測・理論がもつイメージ・コンセプト等をトピックスで解説。本書は、それらの理論を単に個別に説明しようと試みた「辞典」ではない。何らかの「整理枠組み」のもとに、いくつかの理論をカテゴライズしたり、いくつかの理論を横断する共通項を整理することにより、より大きな「総合理論」化を図ったものでもある。
APA論文作成マニュアル 第2版	アメリカ心理学会	前田樹海/江藤 裕之/田中建彦	医学書院	2011	作業手順に沿って内容を再構成。使いやすさが倍増!論文執筆マニュアルとして定評ある『APA論文作成マニュアル』(原著第6版)を翻訳、加筆・修正を加えた最新版。使いやすくすることをめざして大幅に改訂された。作業手順に沿って内容を再構成したほか、倫理的配慮、オンライン補足資料の利用と作成、図・表、グラフなどの作成手順、統計的手法、オンラインでの文献検索などについての記述を加筆・修正している。論文や図表の見本を一新。教育学、心理学、社会学、看護学、行動科学系の論文執筆マニュアルとして最適。

タイトル	作者	その他の作者	発行所	初版発行年	内容 (amazonの内容紹介やBOOKデータベースから抜粋)
DSM-5 精神疾患の診断・統計マニュアル	日本精神神経学会	高橋 三郎/大野 裕/染矢 俊幸/神庭 重信/尾崎 紀夫/三村 将/村井 俊哉	医学書院	2014	精神疾患の世界的な診断基準・診断分類、19年ぶりの大幅改訂!米国精神医学会(APA)の精神疾患の診断分類、改訂第5版。DSM-IVが発表された1994年以来、19年ぶりの改訂となった今回は、自閉スペクトラム症の新設や双極性障害の独立など従来の診断カテゴリーから大幅な変更が施されることとなった。
物語としてのケア—ナラティヴ・アプローチの世界へ(シリーズケアをひらく)	野口 裕二		医学書院	2002	社会構成主義によるケア論の革新、「ナラティヴ」の時代へ。ナラティヴ。このたった一つの言葉が臨床の風景を一変させた。「精神論vs.技術論」「主観主義vs.客観主義」「ケアvs.キュア」...二項対立の呪縛を超えて、「新しいケア」がいま立ち上がる。
高次脳機能障害学	石合 純夫		医歯薬出版	2003	本書は、脳損傷患者さんを対象とするリハビリテーションにおいて、より高い生活の質を目指すため、高次脳機能とその障害を十分に理解し、適切な介入と対応の方策をとるために役立つように記している。
重症心身障害通園マニュアル—在宅生活を支えるために	江草 安彦		医歯薬出版	2000	重症児者や家族の要望に応える新しいサービス形態である重症児通園事業を充実させるために、実際に提供されているサービス、在宅支援のあれこれなど療育現場の体験を言語化・体系化したマニュアル。
音楽療法・レッスン・授業のためのセッション ネット—職人たちのおくりもの (音楽療法の仕事したい!)	theミュージックセラピー編集部		音楽之友社	2005	人と人との関わりを紡ぐ、職人達の工夫のひとつひとつ。ここに在るのは、そんなかけがえのない「ネタ」たちです。目の前のクライアントと向き合い、もっと楽しくなるには?もっと通じ合うには?と、考え、悩み抜いた末に生まれてきたものなのです。すでにあるアイデアの応用も並んでいます。「誰が最初に考えたのか」ではなく、「それをどう使うか」に力点はあなのです。ネタの生まれた過程にイメージを膨らませながら、眺め、読み、そして楽しんでください。
theミュージックセラピー vol.2 (2003 秋) —音楽療法情報誌 (2) ONTOMO MOOK			音楽之友社	2003	特集は「日本の音と音楽療法の接点」、もう一度古来の楽器を見直してみませんか?音楽療法を志す人と、福祉・医療・教育のかかわる人の来る音楽療法情報誌の第2号。今回は「日本の音」をクローズアップした楽器特集です。日本古来の音と音楽療法との接点を求めて。変わった楽器類はどこで買えるのか、情報も満載です。都築裕治氏による「MT楽器アイディア集」は、明日からでも試したい楽器活用のヒントがいっぱい! 巻頭インタビューはクライブ・ロビンス博士海外の楽器事情も交え、グローバルに音楽療法を考える一冊です。
ONTOMO MOOK 音楽療法の本 the ミュージックセラピー Vol.03			音楽之友社	2004	◎<特集>: 音楽だからできる治療がある 「こころ」と関わる音楽療法を考える—ひきこもりに向き合う音楽療法。
ONTOMO MOOK 音楽療法の本 the ミュージックセラピー Vol.04 音楽療法の本			音楽之友社	2004	
theミュージックセラピー vol.5 (2004)—音楽療法の本 (5) (ONTOMO MOOK)			音楽之友社	2004	
theミュージックセラピー vol.6 (2005)—音楽療法の本 (6) (ONTOMO MOOK)			音楽之友社	2005	
theミュージックセラピー—音楽療法の本 (Vol.07) (Ontomo mook)			音楽之友社	2005	
ONTOMO MOOK 音楽療法の本 the ミュージックセラピー Vol.08 2005			音楽之友社	2005	
theミュージックセラピー vol.9 (2006)—音楽療法の本 (9) (ONTOMO MOOK)			音楽之友社	2006	
theミュージックセラピー vol.10 (2006)—音楽療法の本 (10) (ONTOMO MOOK)			音楽之友社	2006	
リーディングス 日本の教育と社会—第1巻 学力問題・ゆとり教育	山内 乾史ほか	原 清治/広田 照幸	日本図書センター	2006	「学力問題・ゆとり教育」に関する膨大な議論を、研究者のみならずジャーナリズムにおける言説も交えて収録。「学力論争とは何か」「ゆとり教育とは何か」を多様なレベルから検証し、その議論の展開と教育改革の行方を示す! いじめ・学力問題から教育基本法改正論議まで、今最も関心が高い教育問題を「社会」との関わりから読み解く新シリーズ、ついに刊行。第一線の研究者が90年代以降の膨大な論文群から優れた論考を精選し、テーマの全体像や論文の意義などについて丁寧な解説を付しました。議論の渦中にある教育問題の現状を探り、未来を展望する教育分野では初の本格的なリーディングスシリーズ。
リーディングス 日本の教育と社会—第2巻 学歴社会・受験競争 (リーディングス 日本の教育と社会 第2巻)	本田 由紀ほか	平沢 和司/広田 照幸	日本図書センター	2007	
リーディングス 日本の教育と社会—第3巻 子育て・しつけ	広田 照幸		日本図書センター	2006	ハウツー本などの技術的アプローチ、特定のイデオロギーや規範からの現状批判に終始しがちな「子育て・しつけ」というテーマに対して、現状を的確に捉えた諸論考を精選。「家族そのものの変化」など、そこに内在する問題、さらに教師・親・行政といった「担い手」の役割を問い直す! いじめ・学力問題から教育基本法改正論議まで、今最も関心が高い教育問題を「社会」との関わりから読み解く新シリーズ、ついに刊行。第一線の研究者が90年代以降の膨大な論文群から優れた論考を精選し、テーマの全体像や論文の意義などについて丁寧な解説を付しました。議論の渦中にある教育問題の現状を探り、未来を展望する教育分野では初の本格的なリーディングスシリーズ。

現代人間論系 所蔵図書リスト

(2018.1.25現在)

タイトル	作者	その他の作者	発行所	初版発行年	内容 (amazonの内容紹介やBOOKデータベースから抜粋)
リーディングス 日本の教育と社会—第4巻 教育基本法	市川 昭午	広田 照幸	日本図書センター	2006	教基法「改正」問題、ことに近年の議論に焦点をあて、「いま・ここ」から教育基本法を考える論考群を精選! 「改正」推進、「改正不要論」の擁護、さらに「改正当面不要論」にいたる議論を網羅。錯綜する言説を整理し、教基法のアポリアに迫る! いじめ・学力問題から教育基本法改正論議まで、今最も関心が高い教育問題を「社会」との関わりから読み解く新シリーズ、ついに刊行。第一線の研究者が90年代以降の膨大な論文群から優れた論考を精選し、テーマの全体像や論文の意義などについて丁寧な解説を付しました。議論の渦中にある教育問題の現状を探り、未来を展望する教育分野では初の本格的なリーディングスシリーズ。
リーディングス 日本の教育と社会 5愛国心と教育 (リーディングス日本の教育と社会)	大内 裕和	広田 照幸	日本図書センター	2007	
歴史教科書問題 (リーディングス 日本の教育と社会第6巻)	三谷 博	広田 照幸	日本図書センター	2007	
リーディングス 日本の教育と社会 7子どもと性 (リーディングス日本の教育と社会)	浅井 春夫	広田 照幸	日本図書センター	2007	
リーディングス 日本の教育と社会—第8巻 いじめ・不登校 (リーディングス日本の教育と社会 第8巻)	伊藤 茂樹	広田 照幸	日本図書センター	2007	「いじめ」「不登校」という現象に対して行われてきたアプローチについて、原因やメカニズムの検討、いじめの言説の分析、不登校と学校教育の変容の検討、問題への「対策」や取り組みなどに関連する諸論考を精選。各論文からその変遷と現状を整理し、今後の行方を探る。
リーディングス 日本の教育と社会—第9巻 非行・少年犯罪 (リーディングス日本の教育と社会 第9巻)	北澤 毅	広田 照幸	日本図書センター	2007	
リーディングス 日本の教育と社会 10子どもとニューメディア (リーディングス日本の教育と社会)	北田 暁大	大和多 直樹/広田 照幸	日本図書センター	2007	教育問題の「いま」と「これから」を考えるための重要論文を精選した知のアンソロジー。
リーディングス 日本の社会福祉 1社会福祉とはなにか—理論と展開 (リーディングス日本の社会福祉)	岩崎 晋也	岩田 正美	日本図書センター	2011	日本の社会福祉分野における研究蓄積の中から、重要論稿を精選・収録。社会福祉のこれまでのあり方を広い視野で捉え直すために、対象年代は戦後から現代(1945~2008年)までを中心に設定。また今後の社会福祉研究を考察するうえで必須となる論文を各編者がテーマごとに選択。冒頭には各編者による「序論」を附し、テーマに関する概説とともに論文選定のねらいを明示。各巻ごとに独自の視点で社会福祉の系譜を読み解く。巻末「文献目録」には、収録論文や「序論」で言及した論文、およびその巻の領域に即した論文を収録し、テーマの全体像を見渡すことが可能。
リーディングス 日本の社会福祉 2貧困と社会福祉 (リーディングス日本の社会福祉)	岩田 正美		日本図書センター	2010	日本の社会福祉分野における研究蓄積の中から、重要論稿を精選・収録。社会福祉のこれまでのあり方を広い視野で捉え直すために、対象年代は戦後から現代(1945~2008年)までを中心に設定。また今後の社会福祉研究を考察するうえで必須となる論文を各編者がテーマごとに選択。冒頭には各編者による「序論」を附し、テーマに関する概説とともに論文選定のねらいを明示。各巻ごとに独自の視点で社会福祉の系譜を読み解く。巻末「文献目録」には、収録論文や「序論」で言及した論文、およびその巻の領域に即した論文を収録し、テーマの全体像を見渡すことが可能。
リーディングス 日本の社会福祉 3高齢者と福祉—ケアのあり方 (リーディングス日本の社会福祉)	副田 あけみ	岩田 正美	日本図書センター	2010	戦後から現代までに培われた日本の社会福祉分野における研究蓄積の中から、重要論稿を精選・収録。社会福祉研究のエッセンスがここに集結。
リーディングス 日本の社会福祉 4ソーシャルワークとはなにか (リーディングス日本の社会福祉)	白澤 政和	岩田 正美	日本図書センター	2011	社会福祉の到達点を一望する!戦後から現代までに培われた日本の社会福祉分野における研究蓄積の中から、重要論稿を精選・収録。社会福祉研究のエッセンスがここに集結。
リーディングス 日本の社会福祉 5社会福祉の権利と思想 (リーディングス日本の社会福祉)	秋元 美世	岩田 正美	日本図書センター	2010	戦後から現代までに培われた日本の社会福祉分野における研究蓄積の中から、重要論稿を精選・収録。社会福祉研究のエッセンスがここに集結。
リーディングス 日本の社会福祉 6地域福祉 (リーディングス日本の社会福祉)	野口 定久	岩田 正美	日本図書センター	2010	日本の社会福祉分野における研究蓄積の中から、重要論稿を精選・収録。社会福祉のこれまでのあり方を広い視野で捉え直すために、対象年代は戦後から現代(1945~2008年)までを中心に設定。また今後の社会福祉研究を考察するうえで必須となる論文を各編者がテーマごとに選択。冒頭には各編者による「序論」を附し、テーマに関する概説とともに論文選定のねらいを明示。各巻ごとに独自の視点で社会福祉の系譜を読み解く。巻末「文献目録」には、収録論文や「序論」で言及した論文、およびその巻の領域に即した論文を収録し、テーマの全体像を見渡すことが可能。
リーディングス 日本の社会福祉 7障害と福祉 (リーディングス日本の社会福祉)	杉野 昭博	岩田 正美	日本図書センター	2011	戦後から現代までに培われた日本の社会福祉分野における研究蓄積の中から、重要論稿を精選・収録。社会福祉研究のエッセンスがここに集結。
リーディングス 日本の社会福祉 8子ども家庭福祉 (リーディングス日本の社会福祉)	山縣 文治	岩田 正美	日本図書センター	2010	戦後から現代までに培われた日本の社会福祉分野における研究蓄積の中から、重要論稿を精選・収録。社会福祉研究のエッセンスがここに集結。
教育法規便覧 (平成11年版)	下村 哲夫		学陽書房	1998	教育法規を学校管理の立場から、領域別に教育活動、児童・生徒、保健・安全・給食、教職員、職員団体、学校の施設・設備、学校事務等に区分し、関連する法律、政令、省令、通達、訓示、告示、判例などを収録、解説したもの。平成10年6月15日現在。
厚生労働白書 (平成16年版) 現代生活を取り巻く健康リスク—情報と協働でつくる安全と安心	厚生労働省		ぎょうせい	2004	
厚生労働白書 (平成17年版) 地域とともに支えるこれから	厚生労働省		ぎょうせい	2005	厚生労働白書 (平成17年版) 地域とともに支えるこれからの社会保障。
厚生労働白書 (平成18年版) 持続可能な社会保障制度と支え合いの循環—「地域」への参加と「働き方」の見直し	厚生労働省		ぎょうせい	2006	皆で支え合う社会を実現していくための基盤として家族を位置付けるとともに、家族と関わりの深い地域と職場に着目し、新たな「支え合いの場」の在り方の可能性について考察する。

タイトル	作者	その他の作者	発行所	初版発行年	内容 (amazonの内容紹介やBOOKデータベースから抜粋)
平成20年版 厚生労働白書 CD-ROM付	厚生労働省		ぎょうせい	2008	人口構造の変化や労働環境の変化を踏まえた対応策について、次世代育成支援と、暮らしの基盤を支える就労と所得確保という切り口から解説。国民から見た社会保障の姿などを分かりやすく示し、これからの社会保障を構築する視点等を示す。
厚生労働白書 平成21年版 CD-R付	厚生労働省		ぎょうせい	2009	平成20年度の厚生労働行政の年次報告書。第1部の特集は、「暮らしと社会の安定に向けた自立支援」と若者、高齢者、障害者、母子家庭、フリーター、ホームレスといった人々において、個人の自立と社会の安定に向けた取組みを解説する。第2部は、「主な厚生労働行政の動き」として、平成20年度における、厚生労働省の推進する施策を解説する。
「ニート」って言うな! (光文社新書)	本田 由紀		光文社	2006	なぜこの誤った概念がかくも支配力を持つようになったのか「ニート」とは、働かず、就学もせず、求職行動もとっていない若者を指す言葉で、日本では二〇〇四年頃より使われ始め、その急増が国を揺るがす危機のように叫ばれている。様々な機関が「ニート」の「人間性」を叩き直そうと「支援」の手を差し伸べており、多額の予算が動いている。このような状況下において、本書では、まず、日本での「ニート問題」の論じられ方に疑問を覚える本田由紀氏が、「ニート」という言葉自体の不適切さを量と質の両面から明らかにする。また、『いじめの社会理論』の著者である内藤朝雄氏は、「ニート」が大衆の憎悪と不安の標的とされていることを挙げ、憎悪のメカニズムと、「教育」的指導の持つ危険な欲望について解説する。さらに、ブログ上で「俗流若者論批判」を精力的に展開し注目を浴びている後藤和智氏が、「ニート」を巡る言説を詳しく検証する。
「あたりまえ」を疑う社会学 質的調査のセンス (光文社新書)	好井 裕明		光文社	2006	数字データでは語れないさまざまな現実を、いかに取り出すか本書は、社会学における社会調査、特に質的なフィールドワークをめぐるものである。ただ、社会調査論の教科書などに見られるような、技法や方法論、倫理などを一般的に説明するものではない。これまでの私自身の質的なフィールドワークの経験や、多くの優れた調査結果を語る作品を読んだ印象や思いを中心に、「世の中を質的に調べる」うえで、基本であり大切だと考えるセンスについて、好きに語ったものである。（「はじめに」より）
文化人類学文献事典	小松和彦	谷泰/原 毅彦/田中雅一/渡辺公三	弘文堂	2004	知の世界にインパクトを与えてきた文化人類学の、学問的蓄積を結集した画期的なエンサイクロペディア。他者や異文化への想像力を鍛える必読書1800点を、世界各地のフィールドを背景に、446人の執筆陣が論じきった意欲的な試み。
三省堂 詳説古語辞典	秋山 虔	渡辺実	三省堂	1999	収録語数4万1千。様々な工夫と多彩な機能で学習をサポートする最上級の古語辞典。99年に刊行。2色刷。
戦後史大事典	佐々木 毅	富永 健一/正村 公宏/鶴見 俊輔/中村 政則	三省堂	1995	1945年の敗戦から90年までの政治・経済・科学技術・文化・風俗・事件等、あらゆるジャンルの事項約3000を写真・図版等とともに解説する事典。排列は見出し語の五十音順で、巻頭に分野別目次と年代別目次を置く。写真・図版等多数収録。巻末資料編として事項索引、人名索引の他、戦後史年表、1300点の文献解題、戦後の内閣・総選挙・国家予算・各賞・災害等の一覧表がある。1991年3月発行のものの増補縮刷版に当たり、巻末に1991~94年の主要な出来事の補遺がある。―未曾有の変貌を遂げた「戦後日本」の50年を集成。
日本の“村”再考―くたばれ近代化農政 (現代教養文庫―ベスト・ノンフィクション)	山下 惣一		社会思想社	1992	
突破への道―新しい人生のためのセルフ・リベアレンティン	M・ジェイムス	深沢道子	社会思想社	1984	
格差社会という不幸(神保・宮台マル激トーク・オン・デマンドVII)	宮台真司		春秋社	2009	金融崩壊と世界同時不況で一気に露呈した日本社会の格差と貧困。一億総中流の平等社会と信じていた背後で何が起っていたのか?解決策はあるか?グローバル化や世界の政治思想の潮流を踏まえ、少子化、教育、貧困、非正規労働など多様な視点から考察。さらに民主党の政策を踏まえて日本社会の針路を論じる対談を付し、この国の再生のために知るべきことを詰めこんだ必読の一冊。
臨床心理士資格試験問題集 (平成15年版) (「臨床心理士になるために」別冊)	日本臨床心理士資格認定協会		誠信書房	2003	本書は「臨床心理士」の資格を取得しようとする人びとに正確な情報を提供するため、既刊の『臨床心理士になるために』の別冊:臨床心理士資格試験問題集―平成15年版―として公刊されるものである。
臨床心理士になるために	日本臨床心理士資格認定協会		誠信書房	1997	本書は、「臨床心理士」の資格を取得しようとする現任の心理臨床家(カウンセラー)や、その候補者として現に大学や大学院で臨床心理学を学んでいる人びとに、適切な資格取得のための情報を提供するために編集されたものである。
カウンセラー専門家としての条件	金沢 吉展		誠信書房	1998	カウンセリングや心理臨床が社会の注目を集める今日、カウンセラーや心理臨床家のあり方、その教育・訓練の仕方は、今までと同じでよいのだろうか。また、専門的な知識や技術は、心理テストや心理療法だけで十分なのか。本書は、従来の本ではあまり扱われなかった重要な問題をくわしく解説し、21世紀に向けて、プロフェッショナルとしてのカウンセラー・心理臨床家のあり方を提言する。日本のカウンセリング・心理臨床の世界に新風を吹き込む注目の書。
カウンセリングの技法	國分 康孝		誠信書房	1979	精神分析を核にした折衷的立場から、カウンセリングにおける「はしのあげおろし」を説いている。カウンセリングは会話術ではなく、人格の表現であるということを、著者独特の覇気に富んだ文章で語りかける。
社会福祉士・精神保健福祉士・ケアマネジャーになるために	副田 あけみ	古川 孝順	誠信書房	2000	それぞれの資格の特徴や取得方法、就職先までを解説。現場で働く人たちの体験談で実際の仕事内容がわかる。知っておくべき社会福祉の仕組みや制度などの基礎知識も身につく。資格取得のための養成施設、大学、短期大学などの一覧を掲載。受験勉強に役立つ学習のポイントや参考書を紹介。

現代人間論系 所蔵図書リスト

(2018.1.25現在)

タイトル	作者	その他の作者	発行所	初版発行年	内容 (amazonの内容紹介やBOOKデータベースから抜粋)
誰のため何のためどう活かすあなたの支援基本のキー『障害』のある学齢期の子どもとともに 技術としての身体(叢書・身体と文化)	中野 敏子		大揚社	2005	
逃走論—スキゾ・キッズの冒険 (ちくま文庫)	野村 雅一	市川 雅	大修館書店	1999	身体は、生まれながらに与えられたものではなく、文化的に形成されるひとつの根源的技術、しかけである。本巻では人間の感覚の様態そのものからはじめて、身体技術のさまざまな断面とそれらの社会・文化的な意味を検証する。
Excelでやさしく学ぶ統計解析—わかってくると楽しいですね	浅田 彰		筑摩書房	1986	《バラノ人間》から《スキゾ人間》へ、《住む文明》から《逃げる文明》への大転換の中で、軽やかに《知》と戯れるためのマニュアル。—現代思想の最前線を疾走する若き知性がドゥルーズ=ガタリ、マルクスなどをテキストに語る《知》の逃走のための挑発的メッセージ。
すぐわかるSPSSによるアンケートの多変量解析	室 淳子		東京図書	1998	たいていの人がつまずく分散や標準偏差も、Excelを使えば意外とカンタンに分かってしまう。Excelの基本操作だけで楽しく学べる、初心者でも安心の統計解析のテキスト。
回帰分析入門 (Rで学ぶ最新データ解析)	内田 治		東京図書	2003	アンケート調査で得られたデータを多変量解析の手法で分析するための進め方を、入力から結果の読み取り方まで、手順を追って解説。SPSSを使い始めたばかりの読者にも、はじめて多変量解析を学ぶ学生・研究者にも、重回帰分析、数量化1類・2類、ロジスティック回帰分析から主成分分析、コレスポンデンス分析まですぐ実用に役立つように書かれている。
産業・労働社会における人間関係—パーソナルネットワーク・アプローチによる分析	豊田秀樹	尾崎幸謙/川端一光/ 岩間徳兼/鈴川由美/ 久保沙織/池原一哉/ 阿部昌利/大橋洗太郎/ 秋山 隆/大久保治信	東京図書	2012	Rによる追計算可能な、回帰分析の定番テキスト回帰分析は、自然科学・工学・医学・人文科学・社会科学から行動科学に至るまで広範囲の学問分野で利用されており、データの興味深い知見を分析者にもたらし、奥の深い統計手法である。本書はそれを理論的に正確な記述を行いながら、初学者にわかりやすい説明をすることを心がけた。フリーのソフトウェアRを用い、章末のスクリプトを利用することで、読者は各章の事例を自ら追計算することができる。また回帰分析に関する応用上重要な話題を、できるだけ広く解説している。
無意識の世界 (こころの科学セレクション)	石田光規		日本評論社	2009	
ブックガイド心理学 (こころの科学セレクション)	河合集雄		日本評論社	1997	日常会話でもよく使われる「無意識」という言葉。一見便利だがとらえどころのない「無意識」の世界を専門家たちがそれぞれの視点から解析。自己理解のためのキーワードの正体を解き明かす。
性格 (こころの科学セレクション)	本明 寛		日本評論社	1998	フロイトの「精神分析学入門」から土居健郎の「甘えの構造」まで、今世紀の心理学の名著をわかりやすく解説。こころの時代と格闘した巨星たちの人となりとその理論を見直す、もう一つの心理学入門。
現代の精神分析 (こころの科学セレクション)	詫摩武俊		日本評論社	1998	わかっているようでとらえどころのない性格。いっしょに科学してみませんか。血液型でほんとうに性格がわかるのか、性格はどんなタイプに分けられるのか、性格は変えられないのか、性格心理学でティーチ・イン。
ユング派の心理療法 (こころの科学セレクション)	小此木啓吾		日本評論社	1998	本書は精神分析学の発展と変遷についての書。フロイトから現代のエリクソン、クライン、ウィニコットへ、1世紀にわたる精神医学の冒険を、斯界第一人者が総展望する待望の書。
睡眠の正常と異常 (こころの科学セレクション)	河合集雄		日本評論社	1998	「自分は、そもそも何者か?」ユング心理学は根源的な問いに向き合う。ユング派の心理療法はきわめて実際のかつ個性的だ。国際的に認定された13人の療法師が、無意識やイメージを個別事例で徹底的に深めていく。
学校のカウンセリング (こころの科学セレクション)	大熊輝雄		日本評論社	1998	睡眠、それは高度化した脳がみずからを休息・活性化させるために開発した驚くべき生存戦略である。現代人の睡眠のメカニズムを脳内物質などから解明し、快眠への道を探る。
自閉症 (こころの科学セレクション)	國分康孝		日本評論社	1999	荒廃する学校現場のなかで児童・生徒が出会う問題の解決を援助するために!授業やホームルームで生かせるものから保護者や教師自身に向けてのものまで、さまざまな学校カウンセリングの形を提示する。
現代の抑うつ (こころの科学セレクション)	中根晃		日本評論社	1999	自閉症の発見から半世紀。科学的事実から治療まで、最新情報を明らかにする。科学的理解、心の理論、アスペルガー症候群、TEACCH方式など、最新の成果から治療法まで、自閉症のキーワードをわかりやすく解説。
赤ちゃんの心理学	風祭元		日本評論社	2000	子どもから中年、高齢者まで、生物学的なメカニズムから予防まで、うつ病との関連から薬まで、現代人の抱える「抑うつ」にさまざまな角度からアプローチする。
いのちの砂時計—終末期医療はいま	大藪泰		日本評論社	2013	発達心理学は、ことばのない赤ちゃんの心の世界をどこまで明らかにしているのか。その最新の知見をやさしく丁寧に解説する。
臨床心理士入門 (大学院編)	共同通信社社会部		日本評論社	2008	突然告げられた余命。チューブに繋がれた我が子を見て「生きて、は親のエゴか」と葛藤する母。妻に余命を告げられず、自責の念に苛まれる夫。一切の延命治療を中止すると決断したとき、ニコッと笑ったように見えた父……。どの道が正解で、何が幸せかは誰にも分からない。それでも砂時計の最後の一粒が落ちるその日まで。死の恐怖と闘い、燦然と輝き続けた幾多の命の記録。
臨床心理士入門 (大学編) (こころの科学増刊)	大塚義孝		日本評論社	1998	
初等統計学	大塚義孝		日本評論社	1999	
心身障害辞典	ボール G.ホーエル	浅井晃/村上正康	培風館	1981	
グループホーム入門—介護サービスの革命	石部元雄		福村出版	1981	
	鳩山邦夫		リヨン社	1999	現代日本の抱える主要問題の一つである「高齢化問題」。その中で「グループホーム」はいかなる役割を果たせるのか。本書はグループホームの必要性和その在りうべき在り方を提示するものだ。

タイトル	作者	その他の作者	発行所	初版発行年	内容 (amazonの内容紹介やBOOKデータベースから抜粋)
ネオ階級社会はここから始まった 1974年、見過ごされた転換点 (平凡社新書)	林信吾		平凡社	2010	
社会的排除・包摂と社会政策 (シリーズ・新しい社会政策の課題と挑戦)	福原宏幸		法律文化社	2007	社会的排除・包摂、現代社会を読み解くキーワード。登場してきた背景から概念、定義、政策展開までを検証。日本における社会的排除の状況を多面的に明らかにする。
ワークフェア―排除から包摂へ? (シリーズ・新しい社会政策の課題と挑戦)	埋橋孝文		法律文化社	2007	ワークフェア(雇用志向社会政策)は貧困克服の有効な手段となりうるか。登場してきた背景からその特徴、波及効果と帰結までを検証。ワーキング・プアや就職困難者など今日の課題にせまる。
シティズンシップとベーシック・インカムの可能性 (シリーズ・新しい社会政策の課題と挑戦)	武川 正吾		法律文化社	2008	いま問われるベーシック・インカムという思考実験。原理的な考察からはじめ、財源までを提示。実現可能性を探る。社会政策学のみならず法学・経済学・政治学などから多面的に検討。
ワーキングプア―日本を蝕む病	NHKスペシャル『ワーキングプア』取材班		ポプラ社	2007	グローバルゼーション、リーマンショックが「ワーキングプア」を常態化させつつある中、その原因と対策に深く迫った渾身のノンフィクション。
ワーキングプア 解決への道	NHKスペシャル『ワーキングプア』取材班		ポプラ社	2008	グローバルゼーション、リーマンショックが「ワーキングプア」を常態化させつつある中、その原因と対策に深く迫った渾身のノンフィクション。
ガラスの仮面 43 ふたりの阿古夜 2 (花とゆめCOMICS)	美内 すずえ		白泉社	2009	
応用倫理学事典	加藤 尚武		丸善	2007	社会にコミットする倫理学である「応用倫理学」の全貌が見渡せる、この分野初の中項目事典。わが国の「応用倫理学」各分野で活躍中の研究者総勢200名が執筆に参加。様々な身の回りのキーワードについて、哲学的・倫理学的概念を援用しながら具体的に考察する。収録する中項目見出し語数は約350。巻末索引の収録語数は約3000語で、それぞれの用語に対応する英語も併記。
社会学事典	日本社会学会社会学事典刊行委員会		丸善	2010	社会学をビジュアルで見通すことの出来る、本邦初の中項目事典。本書は第I部の基礎編、第II部の実践編に分かれており、第I部では学者名を挙げながら、知っておくべき用語を116語を掲載している。
宗教学事典	星野 英紀	池上 良正/氣多 雅子/島 菌 進/鶴岡 賀雄	丸善	2010	本書はその現代宗教学の全貌が見渡せる中項目事典である。宗教学が成立して1世紀以上が経過し、宗教を取り巻く環境がめまぐるしく変化している今、それがいかなる位置にあるのか、いかなる成果を有しているのか、いかなる問題を抱えているのか、その将来的展望はいかなるものかなどの諸点が、各論者の視点からまとめられている。
生命倫理学の基本構図 (シリーズ生命倫理学)	今井 道夫	森下 直貴	丸善出版	2012	本「シリーズ生命倫理学」の全体が、日本における生命倫理の「現在」の総括をめざしているとすれば、その巻頭にあたる第1巻は、学問的反省という視点から「生命倫理」を「学」としてみた場合の「現在」の総括を意図している。生命倫理という歴史的運動の全体の「前提」にあるもの(構想、広義の原理、問題構成、理論枠組み、価値観など)に視線を向け、これを反省することが本巻の狙いである。
生命倫理の基本概念 (シリーズ生命倫理学)	香川 知晶	樫 則章	丸善出版	2012	『シリーズ生命倫理学』の第2巻にあたる本書は、生命倫理の議論でしばしば登場する概念のうちから代表的なものを選び、それらの概念そのものについて検討することを課題としている。「生命」「性」「死」「身体」「健康/病気」「障害(障がい)」「人間の尊厳と人権」「パーソン」「自律」「責任」「正義」「公共性」「動物」の、全体で14に及ぶこれらの概念が、各々の論者の視点から多様なアプローチをとって検討される。
脳死・移植医療 (シリーズ生命倫理学)	倉持 武	丸山 英二	丸善出版	2012	移植医療にはドナーが不可欠という特異性があり、加えて死体臓器移植には死の確認の問題がある。移植医療の発展には社会的承認が必要だが、これらの問題をめぐる議論は生命倫理の核心に関わっている。本書は、それら論点の理解とともに、ドナーの人権保護とレシピエントのよりよい術後生活に向けて、「現場」担当者と生命倫理研究者が論考を寄せたものである。
第4巻 終末期医療 The Japanese Bioethics Series (シリーズ生命倫理学)	安藤 泰至	高橋 都	丸善出版	2012	終末期医療の臨床における狭い意味での医療倫理問題だけでなく、死の教育や医療者教育、日本人のスピリチュアリティなど、今後のあるべき終末期医療を考える上で重要な人間の死や死生観をめぐる文化・社会的課題についても広く考察し、終末期医療をめぐる既存の概念や理論を批判的に問い直す。
安楽死・尊厳死 (シリーズ生命倫理学)	甲斐 克則	笹栗 俊之	丸善出版	2012	安楽死・尊厳死の問題は、生命倫理を語るうえで必ず議論の重要な対象となる。そこには、終末期における生命をめぐる、患者の自己決定権の限界、家族等近親者の判断の役割、意思決定能力のない患者の場合への対応等、終末期医療の極限の法的・倫理的問題点が凝縮されているともいえる。本巻は、国内外の動向を正確に目撃えて、安楽死・尊厳死の問題点について多角的に考察した。
生殖医療 (シリーズ生命倫理学 第6巻)	菅沼 信彦	盛永 審一郎	丸善出版	2012	生殖医療は他分野とは比べものにならないくらい急速に展開してきた、そして今も発展しつつある領域である。そのため、医学・医療の進捗に対し、生命倫理をはじめとする社会的評価が後追いしている状況にある。本書は、生殖医学ならびに倫理学の個々の領域のリーダーである著者たちが、その最前線の現場、研究内容をアップ・ツー・デイトに解説し、「倫理に基づく医学」か、それとも「医学に基づく倫理」かとの問いを突きつけることにより、今後の生殖医療の在り方を考えた。
第7巻 周産期・新生児・小児医療 (シリーズ生命倫理学)	家永 登	仁志田 博司/シリーズ生命倫理学編集委員会	丸善出版	2012	本巻「シリーズ生命倫理学 第7巻 周産期・新生児・小児医療」では、妊婦、胎児から、新生児、小児にいたる患者への倫理的問題を医学、法学、倫理学の面から解説します。周産期医療・新生児医療・小児医療における倫理的特徴を医学的側面・法的側面から解説し、出生前診断や胎児治療、予後不良児への対応の倫理的考察から児童虐待や障害児へのサポート等の問題までを考察します。

タイトル	作者	その他の作者	発行所	初版発行年	内容 (amazonの内容紹介やBOOKデータベースから抜粋)
第8巻 高齢者・難病患者・障害者の医療福祉 (シリーズ生命倫理学)	大林 雅之	徳永 哲也	丸善出版	2012	本巻「シリーズ生命倫理学 第8巻 高齢者・難病患者・障害者の医療福祉」では、高齢者や障害者といった社会福祉で大きなテーマとなる分野を扱います。医療が「治す」ことを目標にするなら、高齢者や障害者はその対象から外れていきかねません。高齢ゆえの衰えにはもはや「治せない」部分が多いし、障害は「根治はできないから長く付き合って飼いならしていく」という宿命を背負うものと言えます。難病とて、「治し難い」から難病と呼ばれるのであって、その実態は障害に近く、ここでは、「治す」医療ばかりではなく、「機能を維持する、機能低下の速度を遅くする、代替手段を見つけてそれを使いやすくする」医療が求められます。そしてその医療は、限られた健康状態でも心健やかに暮らすための福祉的支援と連携するものとなるでしょう。本巻では、このように「高齢者・難病患者・障害者」に関しては、「医療」単独ではなく「医療福祉」という統合的な問題意識で生命倫理的な議論も深めていく必要があるという立場から論じてゆきます。
第9巻 精神科医療 (シリーズ生命倫理学)	中谷 陽二	岡田 幸之	丸善出版	2013	精神科医療では、精神科医療の歴史、現状と将来を解説する。「精神障害」に関連する司法の諸問題を扱う司法精神医学があり、司法に係る精神科医には、社会正義を行う立場と、患者個人のために働く立場の両面があり、患者の行動を外(司法)からと内(倫理)からと判定するため葛藤がある。刑事事件とふたつの立場の関連を解説する。「自殺」では、わが国の自殺の現状とその要因、自殺と精神疾患について。また「認知症」では、国民生活調査から、認知症高齢者の現状と認知症の方々を支える倫理と権利の擁護の必要性を述べる。嗜癖精神医学の歴史の盛衰を語る章では、「嗜癖・依存」はメンタルヘルスの問題であり、治療による対応の有効性が常識となっていることを、過去に行われていた荒唐無稽な荒唐療の事例を示すとともに、患者の生命を危険にさらした時代「精神医学は無力であった」と伝える。また執筆者自身の経験から、同性愛の問題と性同一性障害について、精神科医療の倫理的側面を語る。「精神科医療の法規制」では、うつ病など気分障害に係る精神科医療における倫理を、その特殊性を前提にしながらも、精神障害者の自立と、福祉への配慮は、精神科医自身の判断に負うところ大であると考察する。
第10巻 救急医療 (シリーズ生命倫理学)	有賀 誠	手島 豊	丸善出版	2013	救急医療における倫理的な視点・考え方を各方面の医療について解説する。救急現場の初期診療における諸問題(患者受け入れの医療者側の判断、事故現場における捜査が先か患者搬送が先かの判断、治療方針の決定、手術の同意に関する問題、医療費の支払い問題、初療判断を下した医療側に対する言われなき批判)を現場の視点から解説する。高齢化社会、人口、国の医療政策から救急医療システムにおける問題点を明らかにする。小児救急医療について、日本の医療レベル、体制、医療者と家族の心理、ケアにおける現状と課題を論じる。救急患者の終末期医療とは、その実際と日本救急医学会の取り組みなど救急現場という火急の状況下における脳死判定、延命治療あるいは臓器移植、それらについての家族への説明、などの倫理的対応について精神科急患と救急医療では、患者自身による体の状態や事故状況の説明に多くを望めない現状や、たらいまわしで手遅れになる医療側の問題がある。問題解決に向けた取り組みを紹介。短時間に適切な医療が求められる救急医療における研究のあり方を解説する。
第11巻 遺伝子と医療 (シリーズ生命倫理学)	玉井 真理子	松田 純	丸善出版	2013	生命倫理学は、およそ半世紀にわたって遺伝学・遺伝医療の倫理問題に取り組んできたが、いま大きなテーマ移動が起こっている。これまでは主に単一遺伝病の診断やその治療、その遺伝学的検査情報の取り扱い、それに基づく差別の問題などが倫理的・法的・社会的問題の中心だった。その後のゲノム医学はcommon diseaseと言われる、誰もががかりうる病気(多因子性疾患)と遺伝子との関わりに向かってきた。臨床遺伝医学がすべての人にとって身近な医療となる時代が来ようとしている。分子医科学のかかる大きな転換点に刊行される本巻は、これまで議論の中心であったテーマを最新の状況をふまえて総括するとともに、ここ数年、急速に問題として浮上してきた新しいテーマをも組み込んでいる。
第12巻 先端医療 The Japanese Bioethics Series (シリーズ生命倫理学)	霜田 求	虫明 茂	丸善出版	2012	「先端医療」の中心をなすのはゲノム遺伝子医療と再生医療であり、それらに関連する生殖補助医療、移植医療、脳神経科学、臨床工医学を含めて、医学研究の前線=フロンティアに位置する分野では、世界各国で熾烈な研究開発競争が繰り広げられている。それぞれの分野の現状と課題を整理しつつ、法規制および倫理・社会的諸問題について検討する。
臨床倫理 (シリーズ生命倫理学)	浅井 篤	高橋 隆雄	丸善出版	2012	臨床倫理では、生命の始まりから終わりまでのあらゆる時期の問題を取り扱う。疾患横断的であり、安楽死や中絶など社会的に大きな注目を集める問題や、日常的に医療現場で起きている倫理問題を対象とする。同時にプロフェSSIONナリズム(専門職意識)や人間性の問題も守備範囲とし、職業倫理や徳倫理にも深く関わる。医療専門職・医療系学生に対する倫理教育活動も大きな役割のひとつになる。本書では、医療現場の比較的日常的な倫理問題と事例を取り上げつつ、現時点での臨床倫理関連領域の最前線について紹介・解説する。
第14巻 看護倫理 The Japanese Bioethics Series (シリーズ生命倫理学)	浜渦 辰二	宮脇 美保子	丸善出版	2012	看護師は、患者やその家族、医師との人間関係の中で、日々複雑かつ困難な倫理的問題に巻き込まれており、倫理に基づいた看護を实践することが求められている。また、状況の変化とともに看護師に求められる役割や責任も変わりつつあり、今後わが国の文化に根ざした看護倫理を構築することが課題となっている。
医学研究 (シリーズ生命倫理学)	笹栗 俊之		丸善出版	2012	「医学研究」には、患者(対象者)にとってよいことをなすという目的が必ずしも存在しない。患者にとってよいことかどうかを明らかにすることが研究目的であることが多く、それどころか、患者の直接的利益はまったく望めない研究もしばしばある。したがって、研究における患者のリスクは、医療行為に比べて一般に大きく、研究には強い倫理的介入が要求される。本巻は、このような観点に立ち、今日の研究倫理があつかう領域を網羅できるように構成されている。

現代人間論系 所蔵図書リスト

(2018.1.25現在)

タイトル	作者	その他の作者	発行所	初版発行年	内容 (amazonの内容紹介やBOOKデータベースから抜粋)
第16巻 医療情報 (シリーズ生命倫理学)	村岡 潔	板井 考老郎	丸善出版	2013	現代社会は、今や「ユビキタス社会」へと進展しようとしている。ITと結びついた医療情報の活用への大きな期待と同時に、さまざまな倫理的問題の発生も懸念されている。本巻は、「医療情報社会」のリアルな姿を浮き彫りにすることを目指した。そしてまた、単に電子ネットワーク上のものとしてのみ捉える立場からではなく、患者を中心に据えた医療での「医療情報」の持つ本質的意味について、哲学的・倫理的観点から根本的に問い直すべく論じている。
第17巻 医療制度・医療政策・医療経済 (シリーズ生命倫理学)	今中 雄一	大日 康史	丸善出版	2013	第17巻は医療制度・医療政策・医療経済を扱い、アジア、オセアニア、アメリカ、ドイツ、スウェーデン各国の状況を紹介する。医療を安全に推進するための法政策、感染症対策としての医療経済、国際的な健康水準の現状把握、国家・地域間の健康格差の要因や原因、その格差を最小限にするための対策や政策などを研究する国際保健学について論じる。我が国における医療安全推進のための取り組みとして、医療事故情報の収集、医療事故の原因解明と分析についてその目指すべき方向性と課題を検討する。
第18巻 医療事故と医療人権侵害 The Japanese Bioethics Series (シリーズ生命倫理学)	池田 典昭	加藤 良夫	丸善出版	2012	医療には、患者の疾病を治して苦痛を取り除き、患者を幸福にするプラスの面がある反面、人体実験や医療過誤、薬害等によって患者を傷つけ、患者を不幸にするマイナス面が存在する。我国における医療人権侵害の背景には「人々を不幸にする構図」が存在している。したがってこれらの事態を防ごうとすれば、医師のモラルや狭い意味での医療倫理にとどまらず、バイオエシックスの考え方およびその基本的な価値を踏まえて英知を結集して新しい社会的な仕組みを形作っていくほかはない。本巻では、マイナス面を具体的事例によって詳述するとともに、医療における事故と人権侵害について、各論者が医療・医学分野の倫理の枠にとどまらない議論を展開する。
第19巻 医療倫理教育 The Japanese Bioethics Series (シリーズ生命倫理学)	伴 信太郎	藤野 昭宏	丸善出版	2012	オスラー博士の「平静の心」に代表されるヒポクラテスの誓詞の道徳的立場に基礎を置いた伝統的な医の倫理は、日本では1990年代に入ってから陰を潜め、生命倫理学を重視する傾向が一気に強まっている。現在では、患者中心の医療を病院の基本理念に掲げることが、第三者医療評価機関から認定されるための必須条件となっている状況下にある。一方で、こうした患者中心の医療倫理への行き過ぎに警鐘を鳴らすかのように、最近になって医療専門職のプロフェッショナリズムとしての倫理教育の重要性を再評価しようとする動きもある。本巻は、こうした現在の状況を踏まえながら、12章にわたる構成を企画した。
第20巻 生命倫理のフロンティア (シリーズ生命倫理学)	栗屋 剛	金森 修	丸善出版	2013	本巻は生命倫理学の思想的、かつ哲学的な捉え直しを試みるという意味で、問題設定の視座が広い。全部で11本の論攷からなっているが、例えば、尊厳概念のような基底概念への目配り、日本文化や経済学など異分野との繋がりを通してみた時の捉え直し、あるいは広く文明論的視座に立った時の生命倫理の定位など、そのいずれもが独自の観点から、いまや通常学問化しつつある生命倫理学に対峙して、今後の生命倫理学の全学問分野における位置価値の拡大と深化に繋がる問題群が提示されている。
発達心理学事典	日本発達心理学会		丸善出版	2013	発達とはことばを「かたる」事、世界を「かんじる」/「ふれる」事、私たちが「いきる」事全般に関わります。「かんがえる」/「まなぶ」/「そだてる」事は人を発達させ、「うまれる」ときから「はたらく」とき、「おいる」とき、一生続くものです。人生の中での出来事として「あいする」事、集団から「はずれる」事、「うしなう」事、また他と「くらべる」事などがありますが、よくも悪くも人と「かかわりあう」事は発達/変化をもたらします。人生のある段階に「なる」と状況は「うごく」事があり、ときに「なやむ」事もあります。障害児者の方を「ささえる」事も大事な研究分野です。気質や生物としての枠は「ある」事として決まっており、それゆえに見知らぬ人の「あらわす」表情に共感する事もあります。またどのように被験者を「はかる」/「しらべる」方法や、学会として「うったえる」事、また周辺分野と「てをくむ」状況も紹介しています。
人間関係の生涯発達心理学	大藪 泰	林 もも子/小塩 真司/福川 康之	丸善出版	2014	人は他者なしでは生きてゆけない。自分と他者、そして心の中の他人へのイメージは人生の中で常に付きまとい、発達と密接に関係する。本書では生涯の発達段階を胎児期から超高齢期までの12段階に分けて各年齢での心理を話題豊富に読み解いていく。各章末には最先端の研究者によるコラムを多数収録。
「発達心理学への招待」 ―こころの世界を開く30の扉	柏木 恵子		ミネルヴァ書房	1996	発達心理学にはじめて触れる人のためにその基本的なテーマと考え方を紹介する。人の生涯の成長・変化を追って身近なトピックスをとりあげながら「人間の謎」に通じる「発達研究」の30の扉を開いている。
ふしぎだね!?アスペルガー症候群(高機能自閉症)のおともだち (発達と障害を考える本)	内山 登紀夫	安倍 陽子/諏訪 利明	ミネルヴァ書房	2006	障害を持つ人たちと共に生きていこうという動きが顕在化しつつある現在、「高機能自閉症」はどのようにみられているのか。本書では、高機能自閉症の子どもと障害をもたない子どもとの間や、授業中に起こりがちな事例を取上げ、高機能自閉症の子どもが「なぜそんな行動をするのか」「どう対処したらいいか」を障害をもつ子ども自身、周りの子どもや先生双方の視点から紹介。障害の解説はもちろん、アスペルガー症候群「高機能自閉症」をもっと知りたい人へ役立つ情報などを掲載している。
ふしぎだね!?LD(学習障害)のおともだち (発達と障害を考える本)	内山 登紀夫	神奈川LD協会	ミネルヴァ書房	2006	障害を持つ人たちと共に生きていこうという動きが顕在化しつつある現在、「学習障害」はどのようにみられているのか。本書では、学習障害とはいかなる障害であるかを解説。そのうえで、学習障害をめぐる、学校で起こりがちな事例をイラスト&マンガで紹介。周りからの視点と、本人視点の両方から「なぜこうなるのか」「どうしたらいいか」を具体的に解説する。

タイトル	作者	その他の作者	発行所	初版発行年	内容 (amazonの内容紹介やBOOKデータベースから抜粋)
ふしぎだね!?ADHD(注意欠陥多動性障害)のおともだち (発達と障害を考える本)	えじそんくらぶ 高山 恵子		ミネルヴァ書房	2006	ADHDは30人学級に1人か2人在籍するのではないかといわれる身近な障害。しかし、ADHDであることを本人も知らないままであったり、障害に対する周囲の理解不足により、「わがまま、らんぼう」と誤解されやすい障害でもある。本書では、問題場面の提示→どうしてADHDをもつ子どもがその行動をとったのかの解説→問題行動への対処の仕方の紹介の流れで、学校における事例をオールカラーイラスト&マンガでわかりやすく解説。ADHDの子どもと周りの人双方の視点からADHDをやさしく紹介しており、小学生から読める内容になっている。またADHDをもっと知りたい人のために、第2章で障害の特徴、ADHDの人への接し方などを詳しく説明。ADHDのことを知るのに役立つホームページも掲載している。
ふしぎだね!?身体障害のおともだち (発達と障害を考える本)	日原 信彦		ミネルヴァ書房	2007	この本は、身体障害について知らなかった人には身体障害とは何かを知ってもらい、近くに身体障害のあるおともだちがいるという人には、少しでもその人を理解してほしいとの願いから作られたものです。身体障害のあるおともだちの行動を通して、具体的にどんな障害なのかを紹介している。
ふしぎだね!?言語障害のおともだち (発達と障害を考える本)	牧野 泰美	阿部 厚仁	ミネルヴァ書房	2007	この本では、言語障害のあるおともだちのある日の一場面を通して、言語障害がどんな障害なのかを紹介している。
社会学小辞典	浜嶋 朗	竹内 郁郎/石川 晃弘	有斐閣	1997	現代社会学の主要な概念・用語を網羅し明快な定義づけを客観的に解説。用語・人名五〇〇〇項目を収めた本格的な社会学辞典の新版。
変革期のメディア (新世紀の展望 (1))	堀部政男		有斐閣	1997	
教育心理学―発達と学習を援助する (有斐閣Sシリーズ)	無藤 隆		有斐閣	1991	本書は大学における教職課程の教職専門科目「発達と学習」に対応する教科書である。教育現場で出会うはずの心理的問題・学業不振、学校不適応、個人差への対応、学習意欲の喚起なども論じ、自己育成、自己学習力育成なども取り入れる。
教育思想史 (有斐閣Sシリーズ)	小沢 周三		有斐閣	1993	
教育学 (有斐閣Sシリーズ)	中野 光		有斐閣	1997	教育はいま、さまざまな困難に直面している。近代における教育学の形成と展開の過程を国際的な視野から整理し、21世紀の教育の方向を意欲的に追究するテキスト。
自然と人間 (リーディングス環境)	淡路 剛久	植田 和弘/川本 隆史/長谷川 公一	有斐閣	2005	第1巻は、環境危機の深化とそれに対する人類の知的営みの進歩を扱い、人間の環境問題への関わり方・捉え方の変遷と現状を鳥瞰する。環境を考える基本的な視点が得られる重要論攷を体系的に精選・抜粋し編集解題を付した。
権利と価値 (リーディングス環境)	淡路 剛久	植田 和弘/川本 隆史/長谷川 公一	有斐閣	2006	環境問題は人間や社会にとって何が問題か、またなぜ問題なのか?あるいは環境をめぐる社会問題化するのとはなぜなのか?第2巻は、こうした問いに関わる、環境をめぐる権利と価値、そして責任の問を扱った重要論攷を体系的に精選・抜粋し編集解題を付した。
生活と運動 (リーディングス環境)	淡路 剛久	植田 和弘/川本 隆史/長谷川 公一	有斐閣	2005	第3巻は、環境や環境問題が人間の生活にどう関わるのか、環境破壊が生活にどのような打撃を与えてきたのか、それに対して、人間や社会の側がどのように生活を守り、環境を守ろうとしてきたのか、についての重要論攷を体系的に精選・抜粋し編集解題を付した。
法・経済・政策 (リーディングス環境)	淡路 剛久	植田 和弘/川本 隆史/長谷川 公一	有斐閣	2006	第4巻は、環境問題の解決に必要なとされる、国家・社会・集団の様々なレベルにおける公式的あるいは非公式的な政策投入に焦点が当てられる。環境政策を進める基礎となり道具となる法・経済・政策についての重要論攷を体系的に精選・抜粋し編集解題を付した。
持続可能な発展 (リーディングス環境)	淡路 剛久	植田 和弘/川本 隆史/長谷川 公一	有斐閣	2006	環境問題の激化に伴い、西欧型近代化の是非や豊かさの内実が問い直され、従来の開発形態や発展パターンに代わる新しい理念が模索されるようになった。第5巻は、こうした“持続可能な発展”の概念に関する重要論攷を体系的に精選・抜粋し編集解題を付した。
心理学の基礎知識―補習と復習のために (有斐閣ブックス)	東 洋		有斐閣	1970	
心理用語の基礎知識―整理と検証のために (有斐閣ブックス 627)	東 洋		有斐閣	1978	
新版 心理学のあゆみ (有斐閣新書)	大山 正		有斐閣	1990	心理学史上において、重要な役割を演じた学者たちの人物像と学説をわかりやすく解説しながら、現代心理学への道案内を試みた定評あるテキストの新版。
社会学小辞典 (有斐閣双書―小辞典シリーズ)	浜島 朗		有斐閣	1982	現代社会学の主要な概念・用語を網羅し明快な定義づけを客観的に解説。用語・人名五〇〇〇項目を収めた本格的な社会学辞典の新版。
心理学小辞典 (有斐閣小辞典シリーズ)	大山 正		有斐閣	1978	心理学および関連科学の用語二五〇〇項目を収録し最新のデータに基づき簡潔に解説。学習辞典としての条件を完備した待望の辞典。
臨床社会学のすすめ (有斐閣アルマ)	大村 英昭	野口 裕二	有斐閣	2000	社会学は、医療、福祉、教育などの「臨床」と呼ばれる現場でどう役に立つことができるのか。「臨床」現場で蓄積されてきた理論や実践から何を学びとり、活性化しようとしているのか。「臨床」にこだわる9人の執筆者がアビールする、社会学の新しい試み。
臨床社会学の実践 (有斐閣選書)	大村 英昭	野口 裕二	有斐閣	2001	社会学のトレーニングを受け、福祉、医療、宗教、異文化接触などの臨床の現場に身を置いた人たちが、自らの体験をさらけ出し、社会学の新たな展開を展望しつつ、臨床場面での社会学の役割、「役に立つ」社会学の可能性を探る。理論と実践の往復運動の中で苦闘する姿から社会学の新しい動きが伝わる、臨床社会学への誘い。
ドメスティック・バイオレンス―実態・DV法解説・ビジョン (有斐閣選書)	「夫(恋人)からの暴力」調査研究会		有斐閣	2002	ドメスティック・バイオレンスを許容し温存する性差別の社会構造に鋭くメスを入れ、「ドメスティック・バイオレンス」を考えるさいのバイブルといわれた本書初版。新しく出来た法律の解説とさらに残された課題解決のためのビジョンを示して新版化。
障害者自立支援法とケアの自律	岡部 耕典		明石書店	2006	

現代人間論系 所蔵図書リスト

(2018.1.25現在)

タイトル	作者	その他の作者	発行所	初版発行年	内容 (amazonの内容紹介やBOOKデータベースから抜粋)
経済と消費社会(ジェンダー史叢書 第6巻)	長野 ひろ子		明石書店	2009	古代から現代まで、時代の経済システムに適合・共存してきた家父長制の下、富と権力の分配、生産と再生産、労働と消費はいかにジェンダー化されてきたかをえぐり出す。ジェンダーの視点から人類史にアプローチする「ジェンダー史叢書」の第6巻。
暴力と戦争 (ジェンダー史叢書 第5巻)	加藤 千香子		明石書店	2009	暴力や戦争を批判的にとらえ、考察していく上で、フェミニズムやジェンダー論のもつ意味は大きい。本巻は、「暴力」の歴史を問い直し、その構造や行使される過程をジェンダーの視点から明らかにすることにより、歴史の新たな側面に光をあてる。
視覚表象と音楽 (ジェンダー史叢書 第4巻)	池田 忍	小林 緑	明石書店	2010	表現領域において、女性表現者たちはこれまでどのように扱われてきたか。また、作品中の女性像にはどのようなバイアスがかけられてきたか。絵画、彫刻、演劇、舞踊、音楽等の事例を取り上げ、表象文化論とジェンダー論の視点からこの問題を浮き彫りにする。
生活と福祉 (ジェンダー史叢書 第8巻)	赤阪 俊一	柳谷 慶子	明石書店	2010	日常の暮らしや衣・食・住の生活文化、誕生から死に至るライフコースの様々な儀礼のなかには、性別を刻印した規範や秩序が色濃く存在する。本書はジェンダー史の視点から、生活世界に潜む性別役割とその形成・変遷を、具体例をあげながら分析し明らかにする。
思想と文化 (ジェンダー史叢書 第3巻)	嶺崎 寛子	竹村 和子/義江 明子	明石書店	2010	近代以前の性体制への考察を中心に「学問の変革と再生」「信仰の主体」「文化とメディア」の分野に分け、特定の時代、特定の事象の中で、性にまつわる言説がどのように捏造され、占有され、自明化されてきたかを追跡する。16の論文と12のコラムを収録
人の移動と文化の交差 (ジェンダー史叢書 第7巻)	栗屋 利江編著		明石書店	2011	第7巻では、人々の移動と諸文化の交流の視点から、地域と時代を横断してみられたジェンダー言説を掘り上げることで、既存の歴史理解・記述を読み直す可能性を探っている。ながく歴史の闇に埋め込まれた人々の営みを復権する。
権力と身体 (ジェンダー史叢書 第1巻)	服藤 早苗編著		明石書店	2011	本書では「権力と身体」の本質に迫るため、第1部では同性愛、宗教、「生政治」を取り上げ、第2部では生殖をとりまく権力構造と多様な生殖コントロールに焦点をあて、第3部では古代から現代までの日本における買春の成立と展開、近現代の心身売買を扱う。
家族と教育 (ジェンダー史叢書 第2巻)	石川 照子編著		明石書店	2011	家族と教育の場は、次世代と労働力の再生産に直接関わる領域であり、ジェンダー規範が最も集約的に出現する場である。本巻では、近年の家族史・女性史研究が明らかにした「近代家族」「ポスト近代家族」という家族形態と教育にまつわるトピックを取り上げる。エンダー論(本データはこの書籍が刊行された当時に掲載されていたものです)
失われた場を探して——ロストジェネレーションの社会学	メアリー・C・ブリントン	玄田 有史/池村 千秋	エヌティティ出版	2008	日本の若者に、いま何が起きているのか?学校やハローワークなどの協力を得て収集されたデータの緻密な分析と、学校現場やロスジェネの若者への丹念なインタビューから、学校や職場における「場」の喪失が日本社会に与えた驚くべき事実に向けるロストジェネレーション論の決定版。
ストレス測定法—心身の健康と心理社会的ストレス	Sheldon Cohen/Lynn Underwood Gordon/Ronald C. Kessler	小杉 正太郎	川島書店	1999	本書は、ストレスとその疾患に関する初学者と熟練研究所の双方に役立つ幅広いかつ最先端の情報を提供するために編集を要請されたこの主要な関連領域である心理学・社会学・公衆衛生の3人の専門家が、国際的な研究者を執筆者として招聘し、専門やレベルの異なる読者を対象にした教科書的そして情報源的な書籍を意図し編纂したストレスに関する総合的ガイドブック。
日常生活の社会学 (早稲田社会学ブックレット—社会学のポテンシャル)	大久保 孝治		学文社	2008	全体社会の構造と個人の日常生活の構造について述べるほか、日常生活の特定の側面に焦点を当て、そこで展開されている諸個人の行為や相互作用にどのような構造(規則性)がみられるかを紹介する。
ライフストーリー分析—質的調査入門 (早稲田社会学ブックレット—社会調査のリテラシー)	大久保 孝治		学文社	2009	
心理学のためのデータ解析テクニカルブック	森 敏昭		北大路書房	1990	
エイジング心理学—老いについての理解と支援	谷口 幸一		北大路書房	2007	
私たち、遅れているの?—知的障害者はつくられる	秋山 愛子	カリフォルニアブルーファースト/斎藤 明子	現代書館	2006	すべてをあきらめていた生活から、夢を語り自信をもって生きる生活へ。知的障害者がモノのように受け身だった時代を終わらせ、世界一のシステムに踏み出すきっかけになった衝撃の報告書。
児童青年精神医学セミナー (1)	児童青年精神医学会		金剛出版	2009	いま、子どもの心の問題は、医療にとどまらず、教育や福祉の世界でも大変注目を集めている。発達障害に関する研究も進み、少子化という背景の中で、児童虐待・不登校・いじめという、子どもたちをとりまく環境も、以前とは大きく変化してきた。また、平成19年度からは、特別支援教育の制度的見直しも図られている。本書は、LD・ADHDらの発達障害を中心に、スクールカウンセリング、芸術療法、境界例、解離、統合失調症、乳幼児保健など、児童青年精神医学のトピックを錚々たる執筆者たちが書き下ろした臨床セミナーの第一弾である。最新の臨床知見と研究成果が事例検討をふまえて詳細に解説されている。今後、地域、学校・保健所などと連携した子どもの心への援助、予防的介入などの総合的対策がより重要になると考えられる。児童精神科医、臨床心理士、子ども臨床に関わる現場の方々には是非読んでいただきたい一冊である。
支援困難ケアマネジメント事例集	野中 猛		日総研出版	2009	
完全な人間を目指さなくてもよい理由—遺伝子操作とエンハンスメントの倫理—	マイケル・J・サンデル	林 芳紀/伊吹友秀	ナカニシヤ出版	2010	
統計の基礎—考え方と使い方 (サイエンスライブラリ統計学 11)	M.K.ジョンソン	西平 重喜	サイエンス社	1978	
心理測定法への招待—測定からみた心理学入門 (新心理学ライブラリ (13))	市川 伸一		サイエンス社	1991	

タイトル	作者	その他の作者	発行所	初版発行年	内容 (amazonの内容紹介やBOOKデータベースから抜粋)
心理測定尺度集 (1) 一人間の内面を探る“自己・個人内過程”	堀 洋道	山本 真理子	サイエンス社	2001	本書は、1990年から1999年までの期間に公開された学会誌、学会発表論文集、紀要、単行本にあたり、心理尺度を扱っている論文を集めた。本巻では自己概念、自己知識、自己評価、自尊感情、自我同一性、自己開示・自己呈示など自己に関するもの、ジェンダー・性役割、認知判断傾向、感情・気分に関するものが含まれる。最後の章に「心理尺度の使い方」についての解説がある。本書は心理学の研究者や学生のみならず教育関係者、医療・看護・介護関係者、カウンセラー、マーケティング調査関係者、企業の人事担当者などの実務家も対象としている。
心理測定尺度集 (2) 人間と社会のつながりをとらえる“対人関係・価値観”	堀 洋道	吉田 富二雄	サイエンス社	2001	社会心理学、臨床心理学を中心とする心理学の領域で主にこの10年間に発表された心理尺度を精選の上、多数掲載。尺度の内容だけでなく、測定概念、作成過程、信頼性、尺度の特徴、採点法、出典論文などについても詳しく紹介。
心理測定尺度集(3) ?心の健康をはかる?適応・臨床?	堀 洋道		サイエンス社	2001	臨床心理学、健康心理学、看護心理学、教育心理学にまたがる心理臨床領域において使用されている心理尺度を掲載。十分な回答者のデータをもとにして、信頼性や妥当性が確認され、有用性が高いと判断された尺度を精選。
誇りをだきしめて	村山 美和		千書房	1997	人として女性として誇りをだきしめてあなたの前をそのままの私が通り過ぎる施設から家庭へ移り、そして一般社会へ踏み出す13年間に書かれたものを集めた詩集。
“私”という謎―自我体験の心理学	渡辺 恒夫		新曜社	2004	知っているはずの自分がわからない。「なぜ私は今ここにいるのだろうか」「なぜ、自分は自分に生まれたのだろうか」この問いに心理学はどう答えられるか?自らも同じ問いを抱いた心理学者たちが、多様な角度からこの難問に向き合って生まれた本。
時間と人間 (発達科学ハンドブック 3)	子安 増生	白井 利明	新曜社	2011	「時間」を切り口に、発達の原理に迫る。心・身体・社会の進化、歴史、人生―現在・過去・未来・時を刻む19の物語。
研究法と尺度 (発達科学ハンドブック 第2巻)	岩立 志津夫	日本発達心理学会/ 西野 泰広	新曜社	2011	創意に満ちた研究のための研究法の選択から論文執筆・評価まで。実験、観察、質問紙、量的・質的研究、統計法等の多彩な方法を、いかに的確に、柔軟に使いこなすか。英文執筆等の資料編も充実した学生・研究者必携の研究ガイド。
社会・文化に生きる人間 (発達科学ハンドブック)	氏家 達夫	遠藤 利彦/日本発達心理学会	新曜社	2012	発達にとつての「社会・文化」とは?生物学的な要因を基盤としつつ「世間」の中で育まれる発達を多層的・多面的にとらえる視点と理論。
発達と支援 (発達科学ハンドブック)	無藤 隆	長崎 勤/日本発達心理学会	新曜社	2012	発達心理学をベースに、教育心理学、臨床心理学、臨床発達心理学、障害科学、保育学、教育学など学際的な知見を幅広く結集。研究と実践の相互関係を視野に入れて、問題解決に向けての専門家としての役割を探り、今後の支援のあり方を展望する。
発達の基盤:身体、認知、情動 (発達科学ハンドブック)	根ヶ山 光一	仲 真紀子/日本発達心理学会	新曜社	2012	「身体・脳・心」をつなぐ人間科学的発達論。心の身体性に注目すると、「生物としてのヒト」の発達過程が見えてくる。
発達心理学と隣接領域の理論・方法論 (発達科学ハンドブック)	田島 信元		新曜社	2013	発達心理学の歴史的変遷、理論的基盤と方法論の潮流をたどり、さまざまな隣接領域が、発達心理学にもたらした影響を概括。発達の視点を中核においた「発達科学」としての目指すべき方向を示す。
発達科学ハンドブック7 災害・危機と人間	矢守克也		新曜社	2013	東日本大震災は私たちの暮らしを根底からゆさぶり、人間の本質や社会のありようを深く考えさせるものであった。多様な災害・危機に、人はどのように対処すべきなのか。本書では、自然災害、汚染物質、戦争、虐待といった危機的状況が、個人、家族、社会・文化に与える影響を発達科学の観点から検証し、死と喪失、リスク認知、メディアの役割、ボランティア、復興のプロセスなどのキーワードから、災害時、また支援や防災における人間の行動・発達にアプローチする。事例編では現場へのフィードバックにも役立つ貴重な事例を紹介。理論・方法論と実践的視点から災害社会を生き抜く道を探る。
乳児の対人感覚の発達 心の理論を導くもの	マリア・レゲアステイ	大藪 泰	新曜社	2014	赤ちゃんはどのように「人の心」に気づくのか?多くの心理学者・哲学者が挑んできた「心の起源」「心の理論」をめぐる数々の疑問をユニークな実験手法で明らかにする。
TA TODAY―最新・交流分析入門	イアン スチュアート	深沢 道子	実務教育出版	1991	本書は、トランスアクショナルアナリシスの今の時点での理論と実践の手法を紹介する。
健康心理学概論 (健康心理学基礎シリーズ)	日本健康心理学会		実務教育出版	2002	健康心理学を学ぶ学部学生を中心に、医療、福祉等の関係者を対象とした、健康心理学の入門書。健康心理学の基礎理論から、大きなテーマである健康行動と生活習慣、専門知識など健康心理学の概要をまとめる。
健康心理アセスメント概論 (健康心理学基礎シリーズ)	日本健康心理学会		実務教育出版	2002	本書は健康心理学の研究者や実践家に用いられている方法をさまざまな文献から広く網羅する。アセスメントの基礎理論の解説、健康心理学固有の方法の概観、さらにアセスメント活用にあたっての留意点や倫理的問題の説明という3つの部分からなる。
文化伝達の社会学 (SEKAISHISO SEMINAR)	柴野 昌山		世界思想社	2001	生成・伝達・再構築される「教育」の言説。権力関係によってさまざまに変化する構図を、理論的に、また個性・ジェンダー・階級・学歴などの事例をもちいて実証的に明らかにする。
現代思想1996年4月臨時増刊号 総特集=ろう文化			青土社	1996	
新しい貧困 労働消費主義ニューブア	ジグムント・バウマン	伊藤 茂	青土社	2008	働くことよりも消費することに価値と意味が与えられる時代。消費すらできない人たちは、社会的な役割をもたない自由競争の敗北者として、福祉からもコミュニティからもそして「人間の尊厳」からも排除されてしまう。本書では、現代によって作り出された「ニューブア」の実像と、それを生みだした現代社会の実態にせまる。
社会福祉概論 (新版・社会福祉学双書 第1巻)	『新版・社会福祉学習双書』編集委員会		全国社会福祉協議会	2007	
障害者福祉論 (新版・社会福祉学習双書2007)	『新版・社会福祉学習双書』編集委員会		全国社会福祉協議会	2008	
児童福祉論 (新版・社会福祉学習双書2007)	『新版・社会福祉		全国社会福祉協議	2007	

現代人間論系 所蔵図書リスト

(2018.1.25現在)

タイトル	作者	その他の作者	発行所	初版発行年	内容（amazonの内容紹介やBOOKデータベースから抜粋）
社会保障論 (社会福祉学習双書)			全国社会福祉協議会	2008	
地域福祉論 (新版・社会福祉学習双書2007)			全国社会福祉協議会	2007	
社会福祉援助技術論 (社会福祉学習双書 新版 第8)			全国社会福祉協議会	2007	
医学一般 (新版・社会福祉学習双書2007)			全国社会福祉協議会	2007	
介護概論 (新版・社会福祉学習双書2007)			全国社会福祉協議会	2007	
社会福祉施設運営(経営)論 (社会福祉学習双書 新版 第14巻)			全国社会福祉協議会	2007	
リハビリテーション論 (新版・社会福祉学習双書2007)	『新版・社会福祉学習双書』編集委員会		全国社会福祉協議会	2007	
ケアマネジメント論 (社会福祉学習双書 新版 第17)			全国社会福祉協議会	2007	
行政関係者のための新版入門・生涯学習政策	岡本 薫		全日本社会教育連合会	1996	
子ども白書（1997年版）子ども政策の現在と未来—子どもの自由と民主主義	日本子どもを守る会		草土文化	1997	子どもに関する政策の、戦後改革と半世紀の歩みに学びつつ、子どもの自由と民主主義の拡大・発展の視点から、子どもの実態、現在の子ども政策、新しい子ども政策について考える。
子ども白書（1998年版）「揺れる社会」と「子どもの事件」からの問いかけ	日本子どもを守る会		草土文社	1998	授業崩壊と子どもの事件からの問いかけ、インターネット時代と子どもの世界という2つの最新テーマを特集している。
子ども白書（1999年版）“性”と子どもの人権	日本子どもを守る会		草土文化	1999	今まで本格的に取り上げてこなかった「性と子どもの人権」の問題を特集のテーマとし、子どもの発達と権利保障をデータと資料をもとに述べる。
子ども白書（2000年版）子どもの権利実現と市民的共同	日本子どもを守る会		草土文化	2000	地域再生の新しい展望としての「市民的共同」を紹介。
子ども白書（2001年版）—子ども市民と創る21世紀	日本子どもを守る会		草土文化	2001	「市民的共同」の視点のさらなる発展した形を紹介。
子ども白書（2002年版）—人間回復のための“つながり・ぬくもり”	日本子どもを守る会		草土文化	2002	
子ども白書（2003）—新たな公共性と子どもの自己決定	日本子どもを守る会		草土文化	2003	
子ども白書（2004）	日本子どもを守る会		草土文化	2004	
子ども白書（2005）子どもを大切にす国・しない国—戦後60年・日本の子どもたちの今	日本子どもを守る会		草土文化	2005	本年度版は「子どもを大切にす国」にするにはどうすればよいのか、その点を見つめて編集。「子どもと医療」の領域を新しく設定し、より総合的な視野から問題をとらえた。
子ども白書（2005）子どもを大切にす国・しない国—戦後60年・日本の子どもたちの今	日本子どもを守る会		草土文化	2006	
子どもの文化人類学	原 ひろ子		晶文社	1979	
障害者の日常術	障害者アートバンク		晶文社	1991	年齢も、性別も、暮らし方も違う29人が、苦心と工夫と発見にみちた毎日を、それぞれの言葉で語ってないインタビュー集。
子どもの権利と社会的子育て—社会的子育てシステムとしての児童福祉	許斐 有	野田 正人/望月 彰/桐野 由美子	信山社出版	2002	世紀の児童福祉は、子ども自身がさまざまな社会的支援・援助のもとで健全に育つことができるような機会を補償するとともに、とくに親による子育てが適切に、すなわち「子どもの最善の利益」を考慮していとなまれることを保障するような社会的子育てシステムとして、自らを再構築していくことが求められるであろう。著者らは、そこにこそ児童福祉における歴史の本流があるということを、本書を通して提起する。
実践事例に見るケアマネジメント (シリーズ ケアマネジメントを学ぶ)	日本社会福祉士会 ケアマネジメント事例研究会		中央法規出版	1999	さまざま状況に置かれて援助を必要としている児童に関する実践事例、知的な面の障害や身体面での障害がある人を援助した5つの実践事例を紹介し、幅広い視点に立ったケアマネジャーの必要性を示す。
これであなたも車いす介助のプロに!—シーティングの基本を理解して自立につなげる介助をつくる (おはよう21ブックス—基礎から学ぶ介護シリーズ)	木之瀬 隆		中央法規出版	2007	その車いすは、利用者の身体に適合していますか!その介助の仕方、事故は大丈夫ですか?車いすのシーティングの基礎を知り、適切な介助の仕方を学びましょう。車いす介助の仕方ひとつで、利用者の自立的生活が広がります。
人と社会—福祉の心と哲学の丘	阿部 志郎		中央法規出版	2008	
児童福祉六法（平成23年版）			中央法規出版	2010	
児童福祉六法（平成25年版）			中央法規出版	2012	
生活保護の動向（平成11年版）	厚生省社会援護局 保護課		中央法規出版	1999	
社会福祉の動向（1999）	社会福祉の動向編集委員会		中央法規出版	1999	公的扶助、所得保障、医療保険制度などの社会保障の中核を構成する各分野にわたり、社会福祉制度の概要と最近の動向を編集し解説したもの。
児童福祉六法（平成17年版）	児童福祉法規研究会		中央法規出版	2005	

タイトル	作者	その他の作者	発行所	初版発行年	内容 (amazonの内容紹介やBOOKデータベースから抜粋)
児童福祉六法 (平成18年版)	児童福祉法規研究会		中央法規出版	2005	本書は、児童福祉に携わる方々のために、簡便かつ実用的であることを旨とし、法はもとより政・省令、告示、通知に至るまで体系的に編集した。
社会福祉の動向 (2006)	社会福祉の動向編集委員会		中央法規出版	2006	社会福祉制度を中心に、公的扶助と低所得者、介護保険・老人福祉・老人保健、児童福祉、障害者の福祉、地域福祉の推進、社会福祉の基盤整備、その他の福祉まで、社会保障を構成する各分野の制度の概要と最近の動向を解説。
児童福祉六法 (平成20年版)	児童福祉法規研究会		中央法規出版	2007	
社会福祉の動向 (2008)	社会福祉の動向編集委員会		中央法規出版	2008	
社会福祉の動向 (2009)	社会福祉の動向編集委員会		中央法規出版	2008	
福祉サービスの利用者負担—公共サービス料金の社会経済学的分析	京極 高宣		中央法規出版	2009	
児童福祉六法 (平成22年版)	児童福祉六法編集委員会		中央法規出版	2009	
みずきのびじゅつかん	阿部 愛子	田中 瑞木	汐文社	2008	本書は障害を持った子どもの絵について、実の母親が解説したもの。
発達障害白書 (2003年版) メインテーマ・完全参加を現実 に アジア知的障害会議に向けて	日本知的障害福祉連盟		日本文化科学社	2002	
発達障害白書 (2005) メインテーマ 「変革」の検証—確かな 理念と道筋と	日本知的障害福祉連盟		日本文化科学社	2004	
発達障害白書 (2006) メインテーマ 確かな羅針盤を求めて	日本知的障害福祉連盟		日本文化科学社	2005	発達障害に関係する医療・教育・福祉・労働の各分野にわたる2004年度の動向を、豊富な統計資料とともに網羅している。本年版は「障害者自立支援法」をめぐる論争がメイントピックスといえる。
発達障害白書2007年版	日本発達障害福祉連盟		日本文化科学社	2006	2007年版の特集は、「制度改革・格差社会」にターゲットを絞っている。
発達障害白書 2008年版 (特集 改めてインクルージョンの 質を問う) CD-ROM付	日本発達障害福祉連盟		日本文化科学社	2007	2008年版は、障害者自立支援法の施行、国連総会における「障害者権利条約」の採択等、国内外における劇的な動きを受け、それらが記録としてとどめられることを意識して編集されている。特集は「改めてインクルージョンの質を問う」。「障害者権利条約」の基本的な戦略である「インクルージョン」を念頭に置き、その「質を問う」という形で、発展の段階を確認している。
発達障害白書 2009年版 (CD-ROM付)	日本発達障害福祉連盟		日本文化科学社	2008	第1部・特集のテーマは「発達障害の25年を検証する」。「福祉」「教育」「医療」「労働」「マスコミ (障害者の移り変わり)」の5つの領域に分け、それぞれにおいて「障害概念の拡大」「障害観の変化」「本人の自己決定・意思尊重」という3つのポイントを押さえた上で、国際障害者年を経た後の四半世紀を振り返り、これからを展望している。第2部で2007年度の斯界の動向を網羅し、第3部に年表・統計・関係団体等名簿の資料を掲載。イヤーブックとしての役目を果たしている。
発達障害白書 (2010年版) 特集 いま、発達障害は増えてい	日本発達障害福祉連盟		日本文化科学社	2009	
発達障害白書 (2011年版) 特集 子ども・親・家族のメンタル ヘルス—いま、必要な心のケアは何か?	日本発達障害福祉連盟		日本文化科学社	2010	第1部・特集のテーマは「子ども・親・家族のメンタルヘルス—いま、必要な心のケアは何か?」。WAM (福祉医療機構) 助成事業「障害児の親のメンタルヘルスに関する研究—うつ状態の早期発見と家族支援—」の研究成果を踏まえ、さらに幅広い視点で発達障害のある子に関する、家族も含めたメンタルヘルスについて課題を明らかにし、また社会的支援の在り方について考察している。第2部で2009年度の斯界の動向を網羅し、第3部に年表・統計・関係団体名簿等の資料を掲載。イヤーブックとしての役目を果たしている。
ベネッセが見た教育と学力	ベネッセコーポ		日経BP社	2003	社員、外部スタッフ8万人の教育企業ベネッセが、激変する教育現場を総力を挙げて取材した迫真ルポ。進
子どもの福祉—事例と新たなとりくみ	高瀬 智津子		八千代出版	1997	児童福祉に関する様々な領域の基本的な事例を提示し、事例の中で示された課題に関連して政策・制度・新たな援助方法について解説する。
ジェンダーとストレスに関する心理学的研究	廣川 空美		ふくろう出版	2006	
ケアが街にやってきた—医療的ケアガイドブック	江川 文誠 山田 章弘 加藤 洋子		クリエイツかもがわ	2008	家で、病院で、学校で、ホームヘルプで、福祉施設で、そして街で、医療的ケアをみんなで支えるための“ヒント”と“こころ”を集めた待望の書!はじめて医療的ケアと出会って、とまどっている人にもわかりやすく読めるガイドブック。
自閉症論の原点—定型発達者との分断線を超える	高岡 健		雲母書房	2007	アヴェロン野の野生児研究をはじめ、吉本隆明の心的現象論、ヘーゲルの精神哲学、ドナ・ウィリアムズ「自閉症だったわたしへ」、トルストイ「イワンのかば」などを援用。米国、英国、日本の自閉症の歴史を検証しつつ、人間存在の共通性を相対化する。
日本子ども資料年鑑2016	恩賜財団母子愛育会 愛育研究所		KTC中央出版	2016	子どもに関するデータベース最新刊。医療、教育、栄養、保育、福祉など11分野で約1000もの図表を収集。巻頭特集は「子どものメンタルヘルスを取り巻く現状と今後の可能性」。不登校やひきこもり、発達障害や精神疾患等、子どものメンタルヘルスが社会問題となる今、その実情に焦点をあてながら、子ども達の心理的発達と課題、児童虐待や貧困に対する行政の支援の拡充、医療(小児科・精神科)や教育(一般教員やスクールソーシャルワーカー)の家庭への介入のあり方などを多様な観点で解説する。
親と子の心のカルテ—胎児期から思春期までの臨床心理学	井原 成男		新興医学出版社	1989	
教員採用試験 参考書 (2) 教職教養2教育心理・教育法規 (オープンセサミシリーズ)	東京アカデミー		ティーエーネットワーク	2008	

現代人間論系 所蔵図書リスト

(2018.1.25現在)

タイトル	作者	その他の作者	発行所	初版発行年	内容 (amazonの内容紹介やBOOKデータベースから抜粋)
20世紀のメディア (4) 環境生活としてのコンピュータ	久保田 晃弘		ジャストシステム	1996	コンピュータは道具か、メディアか、思想か?20世紀最大の発明コンピュータは、計算機械として生まれ、頭脳として将来を嘱望され、メディアに生まれ変わり、そしていま、人類のきたるべき環境となろうとしている。ハイパー化しながら深く浸透するコンピュータの実体を暴く。
比較・国際教育学	石附 実		東信堂	1998	
社会政策研究 (4) 特集 障害者と社会政策	『社会政策研究』 編集委員会		東信堂	2004	「障害学」が活発化し、「政策」と無縁ではいられない流れとなった障害者と社会政策についての特集。
カウンセリングとは何か―実践編	池田 久剛		ナカニシヤ出版	2003	ADHD、学習障害、不登校など学校現場を中心に、カウンセリングの場で出会う様々な問題を具体的に解説する。基礎から学ぶカウンセリングの実践。
トータルケアマネジメントにおける理論と実際	遠藤 英俊		日総研出版	1999	増加する「長期ケア」を必要とする要介護高齢者に対して、適切な介護を提供する社会体制の構築を目指す介護保険。新たな介護福祉職としての介護支援専門員に向けて、理論と実際、課題などを述べる。
ヒルガードの心理学	Susan Nolen- Hoeksema/Rita L. Atkinson/Edward E. Smith/Richard C. Atkinson/Daryl J. Bem	内田 一成	ブレーン出版	2002	「心理学」はもはや専門家だけのものではない。学校で、職場で、さげばれる「心の問題」、「心のケア」―すべての人にわかりやすく読める、心理学がよくわかる、世界の心理学教育の中核をなすベストセラー、初の邦訳。
SPSSにおける分散分析の手順	遠藤 健治		北樹出版	2002	分散分析は、実験研究や調査研究において不可欠のデータ解析法であり、研究計画そのものですらある。表計算ソフトのMicrosoftExcelにも、完全独立一元配置分散分析、観測数の等しい完全独立二元配置分散分析、観測数が1の二元配置分散分析が「分析ツール」に用意されているので、ワークシートにデータを用意すれば簡単に分析結果が得られる。しかし、二元配置以上で観測数が異なったり、対応(繰り返し)がある場合はExcelでは対処できない。このような場合は、SPSSもしくはSASのような汎用統計ソフトで処理することになる。本書では、SPSSを用いて分散分析を行う際の手順について紹介する。
軋む社会 教育・仕事・若者の現在	本田 由紀		双風舎	2008	いま、日本社会が軋んでいる。夢を持ってない。将来の展望が見えない。希望が見いだせない。そんな若者の声が聞こえてくる。こんな社会に、誰がしたのか?この社会の何が問題なのか?社会の軋みをなくすための糸口はあるのか?気鋭の教育社会学者・本田由紀には、いま、どうしてもいっておくべきことがある。あきらめと失意、そして絶望が渦巻くこの社会を、変えていくために。未来を支える若者が、生きやすい社会をつくるために。本書で本田は、仕事や教育、家族、そして若者をととして、社会が軋む理由を考え、解決への道のりを考える。巻末には、いまを生きるすべての若者に対する、本田からの熱いメッセージ「いま、若い人たちへ」を掲載。
知的障害者が入所施設ではなく地域で暮らすための本―当事者と支援者のためのマニュアル	ビーブルファースト 東久留米		生活書院	2007	施設を出る方法、1人暮らしの部屋探しから、お金の管理、日中活動、健康管理など、知的障害者が地域で自立した生活を送るため、当事者・支援者が知っておきたいことを論じる。
再帰性と社会福祉・社会保障―「生」と福祉国家の空白化	畑本 裕介		生活書院	2008	新自由「主義」的政策の拡大と福祉国家の変容が進み、安定的な「国家」等の制度を前提とすることができない後期近代において、社会福祉・社会保障に対するこれまでの理論的分析はどこまで有効なのか。アンソニー・ギデンズの「再帰性」概念を参照軸に、再帰性が高まりライフ・ポリティクスへと関係性が変化する社会の状況を捉えるための理論枠組みを提示する。
平成19年版 障害者白書	内閣府編		佐伯印刷株式会社	2007	
平成20年版 障害者白書	内閣府		佐伯印刷	2008	
共生を哲学する―他者と共に生きるために	柿木 伸之		ひろしま女性学研究所	2010	
女性の暮らしと生活意識データ集 (2002年版) (情報センターBOOKs)	生活情報センター		生活情報センター	2002	主婦とOL層のライフスタイル資料を網羅。最新の消費者アンケート調査結果と、関連の官庁統計を豊富に収録。ビジネス、各種の調査研究に最適の一冊。
オーラルヒストリーの理論と実践―人文・社会科学を学ぶすべての人のために	ヴァレリー R.ヤウ	吉田 かよ子/平田 光 司/安倍 尚紀/加藤 直子	インターブックス	2011	本書は、30年以上にわたりアメリカのオーラル・ヒストリーを牽引してきた著者の実践を踏まえた総合的な入門書である。地域女性史をはじめとする歴史学、社会学、さらにはソーシャルワーカーや看護にたずさわる方々にとっても、参照すべき貴重な書でもある。
社会福祉基礎―教師用指導書	大橋謙策ほか		中央法規出版	2007	
社会福祉小六法2016	ミネルヴァ書房編集部編		ミネルヴァ書房	2016	
デイサービスの支援効果と支援技術がわかる本―基本から学びたいあなたに	東京都社会福祉協議会センター部会編		東京都社会福祉協議会	2011	
ボランティア・学生・医療福祉関係者の方のための世代間交流回想法の手引き	上智大学・慶成会老年学研究所編		上智大学・慶成会老年学研究所	2010	
世代間交流効果―人間発達と共生社会づくりの視点から	草野篤子ら編		三学出版	2007	
わかりやすい更生保護―更生保護便覧'09	法務省保護局編		日本更生保護協会	2009	
生きる力をつける支援のために―保護司面接のためのSST	前田ケイ		日本更生保護協会	2011	

現代人間論系 所蔵図書リスト

(2018.1.25現在)

タイトル	作者	その他の作者	発行所	初版発行年	内容 (amazonの内容紹介やBOOKデータベースから抜粋)
もうひとつの手話—ろう者の豊かな世界	斉藤道雄		晶文社	1999	
自立生活ハンドブックⅡ わたしにであう本 援助者ガイドブック	全日本手をつなぐ育成会		日本発達障害連盟	1994	
自立生活ハンドブック 1 6 性・SAY・生 (せい・せい・せい)	全日本手をつなぐ育成会		日本発達障害連盟	2016	
「ノーマライゼーション 障害者の福祉」 2005年3月号			日本障害者リハビリテーション協会	2005	
「月刊福祉」 2012年2月号	全国社会福祉協議会編		全国社会福祉協議会	2012	
DPI—われら自身の声 28(2)	障害者団体定期刊行物協会編		障害者団体定期刊行物協会	2012	
季刊社会保障研究 46(3)			毎日学術フォーラム	2010	
学習障害児の青年・成人期—93ケースの臨床研究	Doris J.Johnson/Jane W.Blalock	橋本 敏	協同医書出版社	1991	
障害者の福祉 '95			日本障害者リハビリテーション協会	1995	
障害者白書 平成23年版 (2011)	内閣府編著		佐伯印刷	2011	
Public Opinion	Walter Lippmann		Macmillan Paperbacks		
Personal Influence: The Part Played by People in the Flow of Mass Communications	Elihu Katz/Paul F. Lazarsfeld/Elmo Roper		Free Press	1964	
生存学研究センター報告 1-14			立命館大学生存学研究センター	2008-2010	
講座 障害児の発達と教育 (1)	宮本 茂雄/鈴木 克明		学苑社	1983	
教育革新の動向 (1969年) (教育学叢書〈3〉)	岡津 守彦		第一法規出版	1969	
共立講座世界の教育〈第8巻〉世界の技術教育 (1960年)	城戸 幡太郎		共立出版	1960	
子どもの権利条約 市民・NGO意見集	子どもの権利条約 市民・NGO報告書をつくる会編			1996	
Systems Research and Behavioral Science 21(5)	Edited By: M. C. Jackson OBE		John Wiley & Sons	2004	
日本子ども資料年鑑2017	恩賜財団母子愛育会 愛育研究所		KTC中央出版	2017	
流行の社会心理学 (1982年)	M-A.デカン	杉山 光信/杉山 恵美子	岩波書店	1982	
社会学史 (1972年) (社会学叢書〈2〉)	鈴木 幸寿		学文社	1972	
アジア&ワールド・データブック'96—テーマ地図とデータでみるアジア新時代と世界の現在 別冊付録			集英社	1996	
AERA Mook (アエラムック) 12 社会学がわかる	毎日新聞社		毎日新聞社	1996	
エブリデイ・ヒストリー—きのう・きょう・あす 知恵庫	朝日新聞社出版局 年鑑・事典編集部		朝日新聞社	1996	
文化人類学入門	ラルフ・リントン 著	清水幾太郎/犬養康彦	創元社	1952	
文化人類学	蒲生正男/祖父江孝男 編		有斐閣	1969	
術語集—気になることば	中村雄二郎		岩波書店	1984	
思想の歴史7—市民社会の成立	野田又夫		平凡社	1961	
構造人類学	クロード・レヴィ=ストロース	荒川幾男	みすず書房	1972	
文化人類学—人間と文化の理論	堀喜望		法律文化社	1954	
介護支援専門員基本テキスト 全4巻	介護支援専門員基本テキスト編集委員会		長寿社会開発センター	2003	

現代人間論系 所蔵図書リスト

(2018.1.25現在)

タイトル	作者	その他の作者	発行所	初版発行年	内容 (amazonの内容紹介やBOOKデータベースから抜粋)
ホームヘルパー養成研修テキスト—2級課程 全4巻 (2002年改訂版)	ホームヘルパー養成研修テキスト作成委員会		長寿社会開発センター	2002	
リハビリテーション研究 76-82(1993-2001)	日本障害者リハビリテーション協会		日本障害者リハビリテーション協会		
臨床心理士を目指す人の指定大学院完全ガイド—06～07年度版	大学院入試問題分析チーム		オクムラ書店	2005	
「こころ」の仕事—人と向き合う・自分らしく生きる	アクロス編集室		PARCO出版	1996	
コスモスの思想—自然・アニミズム・密教空間	岩田慶治		日本放送出版協会	1976	
「教育音楽 小学版」2006/01～2007/01	日本教育音楽協会		日本教育音楽協会	2006-2007	
「教育音楽 中学・高校版」2006/01～2007/01	日本教育音楽協会		日本教育音楽協会	2006-2007	
最新日本語活用事典—現代用語の基礎知識 別冊付録 1999			自由国民社	1999	
心理学	岩下豊彦		金子書房	1998	
全国児童福祉施設要覧	真崎頌也		SBB福祉総合研究所	1988	
雑誌新聞総かたろぐ 2005年版	メディア・リサーチ・センター株式会社		メディア・リサーチ・センター	2005	
現代用語の基礎知識 1996 別冊付録—マップ・ワールド (地図で読む国際問題)			自由国民社	1996	
高等教育機関における障害学生を支えるサポート・システム—その求められる環境(施設・設備)整備	「障害学生の高等教育」国際会議施設設備分科会研究グループ		ポイックス	1993	
世界情報アトラス 情報・知識・imidas 2003別冊付録			集英社	2003	